



雨を活かして、
未来へつなごう。

第14回 雨水ネットワーク全国大会2024



資料集

雨水ネットワーク全国大会

2024年8月3日[土]・4日[日]

あまみずフェスティバル

2024年8月1日[木]～4日[日]

すみだリバーサイドホール 墨田区役所ほか
東京都墨田区吾妻橋1丁目23-20



雨を活かして、
未来へつなごう。

第14回 雨水ネットワーク全国大会2024



開催趣旨

2008年に発足した『雨水ネットワーク』は、雨水活用や雨を主とした水循環系の健全化等に関わる市民・企業・行政・学会等が形成する“緩やかな情報のプラットフォーム”として、全国各地及びオンラインでこれまでに13回の全国大会を開催してきました。

今大会の開催地となる東京都墨田区では、1994年8月に日本で初めての雨水利用をテーマとした国際会議が行われました。それから30年を経て、私たちは地球規模の急激な気候変動に直面しています。今後、これまでに人類が経験したことがない豪雨や干ばつ、高温にさらされる地域も出てくると予想される中、もう一度私たちのくらしと雨の関係を見つめ直し、今後の30年そしてさらなる未来に向かって、産官学民、みんなの知恵を集めて、着実に楽しく行動しながら歩みを進めていきたいと考えています。

気候変動、多発する自然災害、インフラの老朽化といった水を取り巻く課題解決に取り組み、グリーンインフラなどの自然環境を活かした基盤整備を取り入れながら、さらに生物多様性の保全やネイチャーボジティブといった持続可能な希望ある未来につなげていく、これは我々にとって非常に大きな試みです。本大会が、誰にも等しく降る「雨」を入口に、市民・企業・行政・学会が一体となって、未来に向けた行動に踏み出す契機になればと思います。

日々のくらしを支える水についてもっと知りたいと感じている方、雨とくらしの関係を新しい視点で見直したい方、一緒に語り、学び、楽しみましょう。

開催地すみだの雨水活用

東京東部低地のゼロメートル地帯に位置する東京都墨田区は、頻発した都市型水害の解決策として、全国に先駆けて雨水活用に取り組み、助成制度の創設や条例・要綱などの整備を行ってきた自治体です。また近年では、2014年の「雨水の利用の推進に関する法律」、2021年の「流域治水関連法」、2023年の「グリーンインフラ推進戦略2023」等、国レベルでも雨水活用を治水、防災、気候変動適応対策、SDGs等の多様な分野に導入し、市民・企業・行政・学会など様々なセクターでの取り組みを推進しています。

墨田区においても「SDGs未来都市」への選定、「すみだゼロカーボンシティ2050宣言」といった施策を打ち出し、各種環境施策を推進していますが、その中でも雨水活用はSDGsの目標達成及び資源の有効利用や省エネルギーでの水供給につながる貴重な取り組みとして重要な施策の柱となっています。

市民レベルでも墨田区を拠点とした雨水市民の会(1995年発足、2006年NPO法人化)が約30年に渡り、雨水活用及び水循環に関わる調査、研究、実践ならびに市民への普及活動を行っており、2022年からはグリーンインフラを取り入れた小規模雨水管理を広げ、検証する「下町×雨・みどりプロジェクト」を取り組んでいます。

ゼロメートル地帯墨田区からの発信により、日本の都市、ひいてはアジアの都市の気候変動へのレジリエンスを高めることをめざします。

「雨水ネットワークとは？」

『雨水ネットワーク』は、雨水活用や雨を主とした水循環系の健全化等に関わる市民・企業・行政・学会等が形成する“緩やかな情報のプラットフォーム”です。

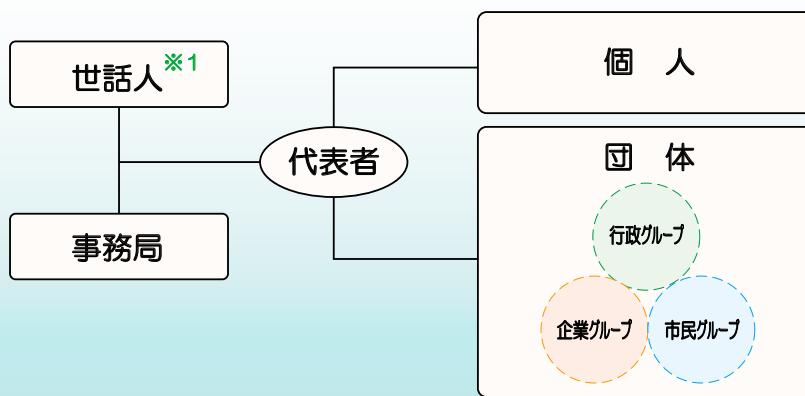
2008年8月「深刻化する都市の水危機を総合的に解決する手段」として、また、「健全な水循環系の再生」を目指し、地域を越え、枠組みを越え、情報の交換や共有、協働を行う『雨水ネットワーク会議』として設立され、2014年「雨水の利用の推進に関する法律」の施行をきっかけに、雨水活用新時代に向けてより活動の場を広げるべく、2015年8月に『雨水ネットワーク』と改名されました。

近年、地球温暖化に伴う気候変動によって、世界各地で洪水や渇水が多発し、深刻な浸水被害や食料生産への影響が懸念されています。国内においては、都市におけるゲリラ豪雨の発生や各地での記録的な集中豪雨の発生増加に伴い、雨との関係を見つめなおし、その付き合い方を考え直す必要性が高まっています。

本来、“雨”は貴重な水資源であり、貯留することで身近な水源として役立ちます。また、雨を積極的に、浸透、蒸発散させることによって、地下水の涵養や地域の健全な水循環系を育みます。雨水を排除するのではなく、“雨水をためて活かすことが当たり前の社会”的実現のためにには、雨水活用に関する研究や技術開発をはじめ、啓発や環境教育など、様々な分野の人々が協働して取り組んでいかなければいけません。そのため、『雨水ネットワーク』は、雨水活用等に関する情報交換や交流を通じて、水循環の健全化に貢献し、持続可能な社会が構築されることを目指して以下の活動を行っています。

1. 雨水に関わる人々のための情報プラットフォームづくり
2. 雨水に関わる人々のネットワーク拡大と交流・協働の促進
3. 雨水に関する知識や技術情報の収集と蓄積
4. 雨水に関する情報の発信
5. 雨水に関わる人々の情報交換および交流を目的としたイベントの開催

雨水ネットワーク Rainwater Network JAPAN



※1：世話人
雨水ネットワーク東北
NPO法人雨水市民の会
NPO法人雨水まちづくりサポート
あめゆきCafe
関西雨水市民の会
雨水楽舎
あまみず社会研究会
一般社団法人日本建築学会
日本雨水資源化システム学会
公財社団法人雨水貯留浸透技術協会

アドバイザー
国土交通省
環境省

大会会長あいさつ

山本 亨 墨田区長



このたび、第14回雨水ネットワーク全国大会2024 in すみだの大会会長を務めさせていただく墨田区長の山本亨です。本大会については、コロナ禍で対面開催は5年ぶりとのことで、全国大会の再開を墨田区で開催でき、非常に嬉しく思っております。

さて、本区とこの雨水ネットワーク全国大会との歴史を振り返ると、平成20(2008)年に雨水ネットワーク会議の設立に併せて実施された第1回雨水ネットワーク会議全国大会を実施させていただいたことを皮切りに、各地で行われる全国大会への参加なども続けさせていただいておりました。今回、本区としては2度目の大会実施となります。全国大会が“すみだ”に帰ってきたという気持ちで非常に感慨深い気持ちでございます。

近年、地球沸騰化とも言われる中、気温の上昇に伴う雨の振り方の変化を強く感じます。異常気象の激甚化や頻発化による豪雨災害や水害も懸念される中、リスクを正しく認識し、対策を講じていく必要があります。

しかし、雨は私たちの生活に潤いをもたらす天からの恵みでもあり、災害の側面ばかりを捉えるのではなく、雨水活用の意義やその有意性に着目し、暮らしの中で楽しく雨水を活用していくことが非常に重要であるものと我々は考えております。

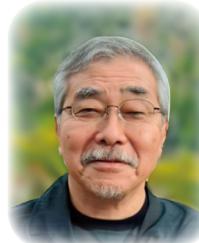
本大会では、「雨を活かして、未来につなごう」という大会テーマのもと、各プログラムを実施していきます。我々、墨田区は大会開催都市として、長年の雨水活用の知見を活かしながら、区として掲げる「人つながる 墨田区」というブランドメッセージに基づき、先人達が築き上げた想いや積み重ねた実践を未来に繋いでいきます。

本大会を通して、日ごろから雨水活用に実践される各人、各団体等の取組を学びながら、これまで本区が行ってきた雨水活用の取組を顧みる契機にしたいと考えております。

むすびに、本大会に参加していただいた皆様の益々のご活躍と、雨水ネットワークの輪が広がり、本大会が成功することを祈念いたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。

実行委員長あいさつ

山本 耕平 NPO法人雨水市民の会 理事長



雨水ネットワーク全国大会は、2019年に第12回大会を福岡大学で開催しましたが、コロナ禍のために開催が中断、2021年にはオンラインによる第13回大会を実施してなんとか継続をしてまいりました。第14回大会は、久しぶりに2008年に第1回大会を開催した墨田区で開催することができました。今大会は、まさに満を持しての全国大会です。

墨田区では1994年8月に「雨水利用東京国際会議」が開催され、ちょうど30周年にあたります。30年前すでに気候変動や飲用水の確保、世界の水危機など、今日われわれが直面している課題は顕在化していましたが、水を取り巻く課題はますます深刻になっています。一方で水循環基本法や雨水利用推進法の制定、グリーンインフラや流域治水の推進などの取り組みが進みつつあります。雨水活用、雨と共生するインフラや社会システムこそが、持続可能な未来のために不可欠であるといえます。

このような認識から、今大会のテーマを「雨を活かして、未来へつなごう」としました。セッションIでは、都市の雨水活用に先鞭をつけた墨田区のこれまでの取り組みを振り返り、セッションIIでは4つの分科会を設けました。雨とネイチャーポジティブ、ゼロメートル地帯から考える雨と防災、われわれ市民が暮らしの中で雨を活かす工夫、そして従来はほとんど触れてこなかった「飲む雨水」について取り上げます。またセッションIIIでは、ストックホルム水大賞を受賞された沖大幹先生に講演をお願いいたしました。

エクスカーションでは首都圏最大級の雨水貯留施設を持つ東京スカイツリー、大規模施設での雨水活用の嚆矢である両国国技館、雨水寺で知られる多門寺と隣接地に市民がつくった「たもんじ交流農園」の3つのコースを用意しました。1日目の交流会では、雨水で醸した「雨水ビール」も登場します。「雨友」たちとの宴も賑やかに行いたいと思います。どうぞ2日間、たっぷりと語り合い、交流いたしましょう。

プログラム

8月3日(土)10:00～17:00

10:00

開会式

進行：菜原 航（墨田区資源環境部環境政策課長）
大会会長挨拶：山本 亨（墨田区長）
来賓ご挨拶：国土交通省水資源部



雨を活かして、
未来へつなごう。

10:15

セッションI

第14回 雨水ネットワーク全国大会2024

in
すみだ

「すみだの雨水～過去から学び、Next Stageへ」

コーディネーター：菜原 航（墨田区環境政策課長）
講演「あまみずイノベーションを未来につなぐ」 村瀬 誠（元墨田区職員、天水研究所）
ディスカッション
村瀬 誠（元墨田区職員、天水研究所）、佐原滋元（一寺言問を防災のまちにする会）、
岩下弘之（墨田区資源環境部長）、木下 剛（千葉大学大学院園芸学研究院）、高橋朝子（雨水市民の会）

12:00
～13:30

休憩

13:30

セッションII

分科会「雨水とわたしたちの未来」

趣旨説明・進行：山本耕平（大会実行委員長、雨水市民の会）
1994雨水利用宣言から30年、雨水とわたしたちの未来とは？

14:00

※移動時間含む
※適宜休憩

1) 雨とネイチャーポジティブ～雨水を活用した都市緑化の可能性～立体的緑地と平面的緑地による生物多様性の回復
コーディネーター：霜田亮祐（千葉大学大学院園芸学研究院）
話題提供：牛久光次（寺島・玉ノ井まちづくり協議会）、角屋ゆづ（（一財）世田谷トラストまちづくり）、竹内智子（千葉大学大学院園芸学研究院）、向山雅之（竹中工務店）、山中淳一（墨田区環境保全課長）

2) ゼロメートル地帯から考える雨と防災

コーディネーター：菜原航（墨田区環境政策課長）
話題提供：佐原滋元（一寺言問を防災のまちにする会）、三橋さゆり（（一財）日本建設情報総合センター）、
阿部 京（東京都下水道局計画調整部再構築・浸水対策推進担当課長）、岩本健一郎（墨田区防災課長）

3) くらしの中の雨水～見える、楽しむ、活かす

コーディネーター：笹川みちる（雨水市民の会）
話題提供：金谷直政（京島地区まちづくり協議会、かなや設計）、木下 剛（千葉大学大学院園芸学研究院）、矢神卓也（（株）建設技術研究所Riskma担当）、
大川原雄一郎（東京都都市整備局都市基盤部調整課統括課長代理（施設計画担当））、南 昌子（雨水市民の会）

4) 飲む雨水～インフラとヒトの変化から考える飲むあまみずの近未来

コーディネーター：山村 寛（中央大学人間総合理工学科）
話題提供：石山民子（アシア礁素ネットワーク）、小熊久美子（東京大学）、鎌田芳久（（有）鎌田工業所、あまみず水道屋）、
前田瑠介（WOTA（株））

16:00
～17:00

分科会まとめ

進行：山本耕平（大会実行委員長、雨水市民の会）
コーディネーターによる総括、フロアを交えたQA

18:00
～20:00

交流会

すみだリバーサイドホール ※会費制5,000円

8月4日(日)10:00~12:30

10:00

セッションIII

「雨水は世界を救うか?」

進行：笹川みちる（雨水市民の会）

第1日振り返り
・セッションI「すみだの雨水」報告
・セッションII「分科会・雨水とわたしたちの未来」報告

10:15

特別講演「雨の恵みと災い—わたしたちの都合」

沖 大幹（水文学者、東京大学 教授）

11:00

パネルディスカッション「雨水、文化、都市の未来を語る」

コーディネーター：橋本淳司（水ジャーナリスト、アクアスフィア・水教育研究所）

パネリスト（敬称略）：沖 大幹（水文学者、東京大学 教授）

長谷部愛（東京造形大学 非常勤講師）

石井秀幸（ランドスケープアーキテクト、スタジオテラ）

尾崎昂嗣（代表社員、アールアンドユー・レゾリューションズ）

12:15

閉会式

雨水東京2024宣言

山本耕平（大会実行委員長、雨水市民の会）

12:30

終了・解散

事前登録制

（定員各20名程度）、終了後現地解散

14:00

～16:30頃

エクスカーション

時間はコースにより調整

A. たもんじ交流農園と多聞寺

都市の中の緑化と水循環を知り、活動の担い手と交流する

協力：多聞寺、寺島・玉ノ井まちづくり協議会

橋本淳司（水ジャーナリスト）

B.両国ポンプ所と両国国技館周辺

大規模雨水利用の始まりと雨水排水の現場を訪ねる

協力：東京都下水道局

*雨天時は見学時間、ルートが変更になる可能性があります

C.東京ソラマチ・スカイツリー

墨田区最大の雨水活用スポットを訪ね、環境配慮の取り組みを見学する

協力：東武タウンソラマチ株式会社

「あまみずフェスティバル」プログラム

会 場	8月1日（木） 10:00～17:00	8月2日（金） 10:00～17:00	8月3日（土） 10:00～17:00	8月4日（日） 10:00～16:00
アトリウム	団体・企業ブース／協賛団体など、雨水関連企業の取り組み紹介			
	展示：自治体・行政ブース／墨田区、群馬県みどり市、国土交通省水資源部、国土交通省関東地方整備局荒川下流河川事務所 東京都都市整備局、東京都下水道局 RNJ ブース／RNJメンバー、千葉大学大学院園芸学研究院ランドスケープ学コース演習成果展示ほか			
ギャラリー	展示・体験：雨のしずくモビール 協力：墨田区公立保育園、認定こども園 雨・水の絵本紹介：災害対応リヤカーブ図書館「北斎丸」 協力：すみだ新製品開発プロジェクト、芝浦工業大学、雨水市民の会 展示：江東5区段ボールジオラマ 協力：JT「Rethink PROJECT」 展示：雨の浮世絵 協力：すみだ北斎美術館			
会議室	体験：雨つぶぐるぐるすごろく大型版			
ミニシアター	上映：雨と水の動画 雨水ネットワーク参加団体活動紹介動画 ほか			
うるおい広場	雨水えんにち (射的・スーパーボールすくいなど)	雨水えんにち 打ち水	キッチンカー ほか	
向島・京島地域	すみだ雨水まちあるき（セルフイベント） マップ（無料配布）とウェブサイトを見ながら、向島・京島の路地尊、天水尊、雨どいプランターなどの雨水活用スポットをめぐろう 朝カフェ（OPEN: 8/4 8:00～） 雨水市民の会事務所にて開店、「雨水まちあるき」の際に立ち寄り頂けます 協力：京島地区まちづくり協議会			

★「あまみずフェスティバル」8月2日（金）限定プログラム★

「水の日」応援大使「シャワーズ」がやってくる！

アトリウム	シャワーズとグリーティング（記念撮影） ① 10:00～ ② 11:30～ ③ 13:30～	※定員：各回先着30グループ 各回の開始30分前から整理券を配布しますので、会場にお集まりください。 各回ごとに、定員に達し次第、整理券の配付は終了します。
うるおい広場	シャワーズと一緒に打ち水 15:30～	※開始の5分前に会場にお越しください。 <ul style="list-style-type: none"> 打ち水後にグリーティングは実施しませんので、グリーティングをご希望の場合は、第1回～第3回のグリーティングにご参加ください。 雨天中止。雨天中止の場合は、グリーティングをすみだリバーサイドホール1Fアトリウムで15:30から行います。 開始時間30分前から整理券を配布しますので会場にお集まりください。 定員30グループに達し次第、整理券の配付は終了します。

目 次

セッションI 「すみだの雨水～過去から学び、Next Stage へ～」

趣旨説明	・・・・・	2	
登壇者紹介	村瀬 誠・佐原滋元・岩下弘之	・・・・・	3
	木下 剛・高橋朝子	・・・・・	4
講 演「あまみずイノベーションを未来につなぐ」	村瀬 誠	・・・・・	5

セッションII 分科会「雨水とわたしたちの未来」

趣旨説明・分科会の進め方	・・・・・	12	
分科会 1) 雨とネイチャーポジティブ～雨水を活用した都市緑化の可能性			
趣旨説明・コーディネーター紹介	霜田亮祐	・・・・・	13
話題提供者紹介	牛久光次・角屋ゆづ	・・・・・	14
	竹内智子・向山雅之	・・・・・	15
	山中淳一	・・・・・	16
分科会 2) ゼロメートル地帯から考える雨と防災			
趣旨説明・コーディネーター紹介	菜原 航	・・・・・	17
話題提供者紹介	佐原滋元・三橋さゆり	・・・・・	18
	阿部 京・岩本健一郎	・・・・・	19
分科会 3) くらしの中の雨水～見える、楽しむ、活かす			
趣旨説明・コーディネーター紹介	笹川みちる	・・・・・	20
話題提供者紹介	金谷直政・木下 剛	・・・・・	21
	矢神卓也・大河原雄一郎	・・・・・	22
	南 昌子	・・・・・	23
分科会 4) 飲む雨水～インフラとヒトの変化から考える飲むあまみずの近未来			
趣旨説明・コーディネーター紹介	山村 寛	・・・・・	24
話題提供者紹介	石山民子・小熊久美子	・・・・・	25
	鎌田芳久・前田瑠介	・・・・・	26

セッションIII 「雨水は世界を救うか？」

趣旨説明	・・・・・	28	
特別講演「雨の恵みと災い－わたしたちの都合」	沖 大幹	・・・・・	29
パネルディスカッション「雨水、文化、都市の未来を語る」			
趣旨説明・コーディネーター紹介	橋本淳司	・・・・・	34
パネリスト紹介	沖 大幹・長谷部愛	・・・・・	35
	石井秀幸・尾崎昂嗣	・・・・・	36

エクスカーションコース紹介	・・・・・	37
---------------	-------	----

支援団体広告	・・・・・	39
--------	-------	----

企画・運営	・・・・・	43
-------	-------	----

セッションI

「すみだの雨水 ～過去から学び、Next Stage へ～」



雨を活かして、
未来へつなごう。

第14回 雨水ネットワーク全国大会2024

In
すみだ

セッションⅠ

「すみだの雨水 ～過去から学び、Next Stage へ～」



《コーディネーター》

菜原 航（墨田区環境政策課長）

東京都の東部低地のゼロメートル地帯に位置する墨田区は、1980年代から雨水活用に取り組んでいる自治体です。当時、頻発する都市型水害の解決策として、全国に先駆けて雨水活用に取り組み、公共施設への雨水利用導入のほか、雨水タンクに対する助成制度の創設や条例・要綱の整備による民間施設への雨水導入促進を行ってきました。

また、平成6（1994）年8月には、雨水利用東京国際会議を開催するなど、雨水活用について国内外から注目される自治体であり、平成12（2000）年7月には、ICLEI（国際環境自治体協議会）から国際環境賞の水部門で優秀賞を受賞させていただいたこともあります。

しかし、過去に作り上げた多くの雨水施策は、着実に成果をあげる一方で、なかなか新しい雨水活用施策等を打ち出すことができずに、新たに雨水を活用していこうとする機運の醸成等が十分に行えていないという課題があります。

また、近年「気候危機」とも言われている気候変動問題は、本区にとっても避けることのできない喫緊の課題で、気温上昇とともに、頻発化・激甚化が進む豪雨への備えは非常に重要な行政課題となっております。

このように様々な課題がある中で、雨水活用を牽引してきた自治体である“すみだ”が、これまでの歩みを振り返りながら、昭和、平成、令和と移り変わる時代の中で、新たな雨水活用～Next Stage～に到達するため、どのようなことが必要なのかということを関係者とディスカッションしながら考える時間としていきます。

本セッションでは、1980年代に墨田区が雨水活用に取り組み始めた当時、情熱を持って取組を推進してきた先駆者である村瀬誠氏（元墨田区職員、株式会社雨水研究所代表取締役）をお招きし、講演をいただきます。講演では、墨田区の雨水活用に関するこれまでの歩みから、村瀬氏のこれまでの取組をお話しいただく予定となっております。

また講演後には、すみだの地域で現在まで雨水活用を実践してきた佐原滋元氏（一寺言間を防災のまちにする会）や高橋朝子氏（NPO法人雨水市民の会）、墨田区の雨水活用について研究を進めてくださっている木下剛教授（千葉大学大学院園芸学研究院）、墨田区資源環境部長の岩下弘之部長（墨田区）も加わり、過去、現在、そして未来の雨水活用についてディスカッションを行っていきます。

ご登壇者紹介

村瀬 誠 元墨田区職員、株式会社天水研究所 代表取締役

[プロフィール]

1976 年千葉大学薬学部大学院修士課程修了。1976～2009 年墨田区職員として保健所環境衛生監視及び環境保全業務に従事。1982 年区に総合的雨水利用を提案。1994 年雨水利用東京国際会議実行委員会事務局長、2003～2005 年 IRCSA 副会長、1996 年東邦大学にて学位取得（博士薬学）。2009～2019 年東邦大学薬学部客員教授、2002 年ロレックス賞受賞、2014 年日本水大賞・国際貢献特別賞受賞。現在、株式会社天水研究所代表取締役、NPO 法人雨水市民の会理事、Skywater Bangladesh Ltd. 会長。著書に「雨を活かす」（岩波アクティブ新書）など。

©Rolex Award

※講演資料は、P.5～10 に掲載しています。

佐原 滋元 いちてらこととい
一寺言問を防災のまちにする会 副会長



[プロフィール]

防災生活圏モデル事業として発足した「一寺言問を防災のまちにする会（通称一言会）」の活動に当初から参加。
雨水利用施設「路地尊」の設置などに取り組む。NPO 法人雨水市民の会副理事長、向島百花園内の売店「茶亭さはら」隠居

[ディスカッションに向けて]

関東大震災以降、墨田区は軟弱な地盤の上に木造建築の密集したまちとなり、地震災害には弱いまちと言われ、特に東京大空襲で燃え残った家屋が多い「京島地域」「一寺言問（一言）地域」では、集中的なまちの改善事業が始まりました。「一言地域」では、比較的消防用水の蓄積がある地域なので、被災時の飲み水確保を目的に「雨水利用」を推進してきました。その後「京島地域」でも雨水を貯めてきましたが、環境の差から、主に消火のための雨水蓄積となりました。各々の地域ではまちの姿は改善されてきましたが、これから雨水利用について考えてみたいと思います。

岩下 弘之 墨田区 資源環境部長



[プロフィール]

平成 4 年 墨田区役所入庁、企画経営室に配属され、平成 6 年の雨水利用東京国際会議を事務局担当部として経験。情報システム担当課長、国保年金課長、介護保険課長、契約課長を経て、令和 6 年 4 月から現職。

[ディスカッションに向けて]

墨田区での雨水利用東京国際会議開催から 30 年目の節目を迎えました。この間、本区は雨水市民の会の皆さんとともに雨水利用を進めてきました。今では、区内随所に雨水タンクが設置される等、区民の雨水利用が日常化しています。このたびの全国大会を通じ、墨田区の雨水利用のネクストステージに進んでいきます。

木下 剛 千葉大学大学院園芸学研究院 教授



[プロフィール]

博士（学術）、専門は造園学。近年はグリーンインフラの制度設計、グリーンインフラの概念規定に係る研究に勤しむ。日本造園学会グリーンインフラ研究推進委員会委員長、国土交通省グリーンインフラ懇談会委員、早稲田大学創造理工学研究科非常勤講師、千年村プロジェクト共同代表等を務める。英國エディンバラ・カレッジ・オブ・アート客員研究員（2001年度）、英國シェフィールド大学ランドスケープ学科客員研究員（2016年度）。共著に、『決定版！グリーンインフラ』など。

[ディスカッションに向けて]

昨年度、墨田区環境保全課と共同で行った雨水タンクの利用実態調査の結果概要についてご報告させていただきます。具体的には、墨田区内の雨水タンク設置者・管理者に対して実施した雨水タンクの利用状況に関する意識調査の結果と、セッションⅡ分科会でお話する雨樋プランターの設置要望、また、雨樋プランターの設置に係る空間的条件（雨樋の設備やプランターの設置スペースの有無等）の調査の結果を報告します。これらの調査結果をご報告しながら、今後の墨田区における雨水タンクや雨樋プランター等のあり方について考えます。

高橋 朝子 NPO 法人雨水市民の会 理事



[プロフィール]

2003年「世界水フォーラム in 京都」や2005年「雨水東京国際会」等の雨水市民の会の実行委員として活動しました。また「雨の事典」（2001年発行）の編集に携わりました。

現在はNPO法人雨水市民の会の事務局長を務めています。広報活動の一環としてHPの「Web あまみず」（www.skywater.jp）の配信等を行ったり、下町×雨・みどりプロジェクトや雨水活用の見える化事業を中心に活動を行っています。

[ディスカッションに向けて]

雨水をためて使うことを一般的に「雨水利用」と呼びますが、雨水市民の会も以前は「雨水利用を進める全国市民の会」という名前でした。2003年に現名称に変更しました。「利用」という言葉に人間本意の考え方方が表れていると思ったからです。雨は生命を育み地球環境を守っているのに欠かせないものです。

しかし、まちでは雨を邪魔者扱いし、早く「捨てる」まちをつくってきました。近年、雨水を地面に浸透して水循環に寄与することも重要視されています。そのため、雨に感謝し雨と共生するまちづくりやくらし方を目指す「雨水活用」という言葉を使っています。

講演「あまみずイノベーションを未来につなぐ」

村瀬 誠（元墨田区職員、天水研究所）

※プロフィールは、P.3に掲載しています。

あまみずイノベーションを未来につなぐ

一雨に感謝し、雨を活かす、平和で幸福な世界を目指してー

Dr.Sky Water/村瀬 誠

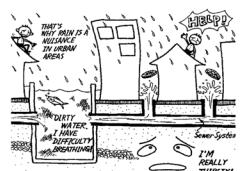


水資源、遠くのダムより軒の雨

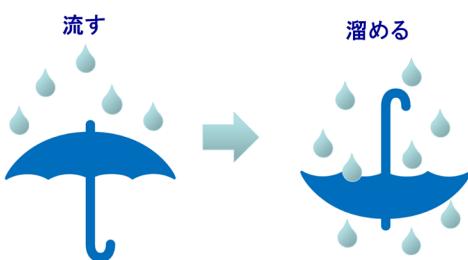
年間平均降水量：25億トン、一年間の水の消費量：20億トン（東京都）



大都市東京も大地と空の間を循環する
雨によって活かされている！



水循環を取り戻し、都市型洪水を防止する



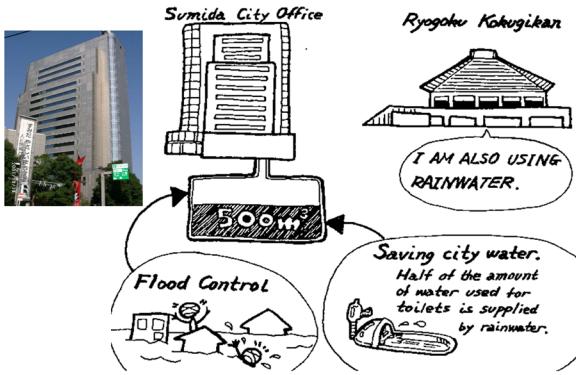
流せば洪水、ためれば資源



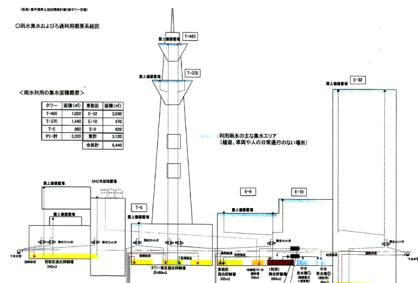
先駆けとなった新国技館の雨水利用



墨田区新庁舎も雨水利用



気候変動に対応した 東京スカイツリーの 雨水利用



ライフラインに全面依存した都市は
大震災にもろかった！

一阪神淡路大震災の教訓一



ライフ ライン からライフポイントへ



耐震水道管が破断

国連世界減災害白書
(2015)

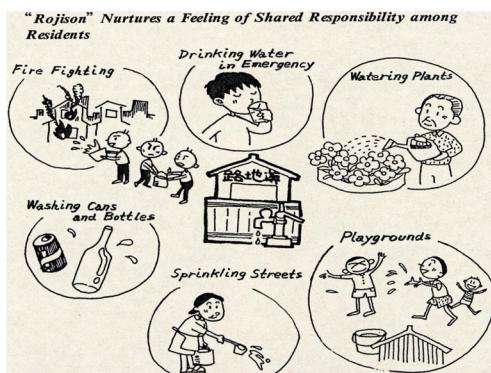
大活躍した雨水タンク



地域のライフポイント・路地尊



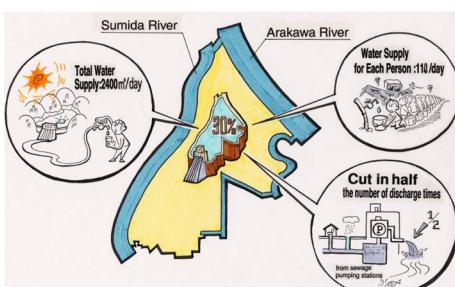
雨を活かしまちを守る



雨水タンク普及効果の解析



治水、利水、防災及び環境の有効性



墨田区内雨水利用施設における貯留雨水の水質

	公共施設		路地尊		大規模 民間施設	中規模 民間施設	小規模 民間施設	飲料水水質基準
採水日	99.1.19	95.4.19	99.1.19	96.8.4	95.4.19	99.1.19	99.1.19	99.1.19
N-NO ₃ and N-NO ₂	3	1.6	1.2	1.4	2.1	3.2	3	1.5
Cl ⁻	31.2	7.8	5.7	7.1	25.2	32	32.6	3.5
COD	2.8	4.2	1.9	2.2	3.9	3	2.8	2.5
一般細菌	5	7	2	8	0	9	1	10
Coliform group	-	+	-	-	-	-	-	-
pH	7.4	7.3	9.8	10.2	8.1	8.4	6.9	5.9
臭気	-	+	-	+	-	-	-	+
色度	3	7	5	4	1	2	5	3
濁度	1	1	1	1	1	1	1	2 ↓

墨田区雨水利用推進指針

- 行政の率先実行
- 民間への指導
- 助成制度の導入

雨水利用サイン



開発における すみだあまみずルール

- 敷地面積が500m²以上あるビルや集合住宅は、雨水の貯留、浸透利用を積極的に推進しなければならない。
- (墨田区集合住宅条例、墨田区開発指導要綱)

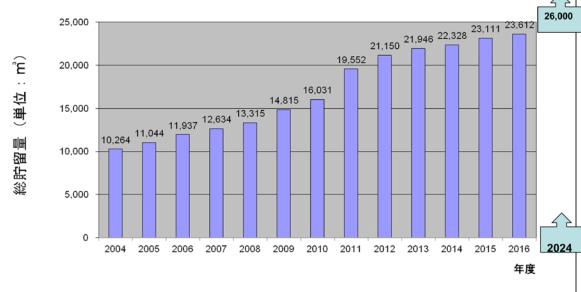
雨水タンク設置助成



Drain City ⇒ Rain City



墨田区内における雨水貯留量の経年変化



国際自治体環境賞授賞式

2000年7月ドイツ・デッサウにて



雨水資料室

(すみだ環境ふれあい館)



Rain City Tokyo へ！



水循環を取り戻し、雨を活かす法律

水循環基本法

雨水利用推進法

2014年制定

世界に広がる雨を活かす知恵



パンブラデシュに広がる もう一つの水道設備・AMAMIZU



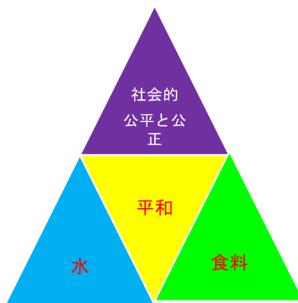
深刻な飲み水の危機に直面する ロヒンギヤ難民キャンプ(Cox's Bazar)



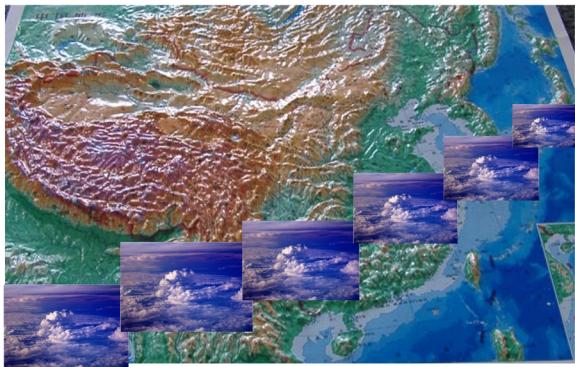
Wahidさんありがとう！



SDGsの前提条件



世界の空はつながっている！



セッションⅡ

分科会「雨水とわたしたちの未来」

- 1) 雨とネイチャーポジティブ～雨水を活用した都市緑化の可能性
- 2) ゼロメートル地帯から考える雨と防災
- 3) くらしの中の雨水～見える、楽しむ、活かす
- 4) 飲む雨水～インフラとヒトの変化から考える飲むあまみずの近未来



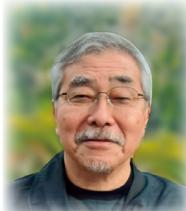
雨を活かして、
未来へつなごう。

第14回 雨水ネットワーク全国大会2024

In
すみだ

セッションⅡ

分科会「雨水とわたしたちの未来」



《進行》

山本 耕平（大会実行委員長、雨水市民の会）

全ての生命に欠かすことのできない雨。しかし我々の社会は、都市化の進展の中でどちらかといえども雨を邪魔者と扱い、なるべく早く排水するまちづくりを行ってきました。

今から30年前に墨田区で開催された「雨水利用東京国際会議」は、その流れに疑問を投げかけ、会議の締めくくりには、都市と雨の共生を謳った「雨水宣言」が示されました（下図）。

そして今、地球規模の急激な気候変動に直面する中、わたしたちは雨との関係性を改めて見直す時期に来ています。今後の30年そしてさらなる未来に向かって、産官学民、みんなの知恵を集めて、着実に楽しく行動しながら歩みを進めていきたいと考えています。

4つの分科会では、気候変動、多発する自然災害、インフラの老朽化といった水を取り巻く課題をとりあげ、その解決にどう取り組んでいくのか、またそのためには、自然環境をいかに育み、その力をくらしの中に取り入れていくことができるのかを、様々な切り口から考えます。同時に、雨と共にくらす新しいライフスタイルを楽しく実践することが、社会の変化と希望ある未来につながる鍵と捉え、そのような事例を多く紹介していきます。

各分科会のコーディネートは、研究者、自治体職員、市民団体メンバーが担い、話題提供者も産官学民の多様なセクターからお迎えします。またそれぞれの登壇者が研究者と実践者、企業と市民団体、行政と地域住民といった形で、各々複数の立場を持って雨や水に関わっていることも、これからのおもてなしを考える上での特徴となっています。

締め括りの全体会では、各分科会からの議論を持ち寄り、新たな雨水宣言に向けた「雨水とわたしたちの未来」を考えます。

雨水宣言文

雨水利用東京宣言

雨水は気候や風土、地域の特性はあるものの、だれもが平等に手に入れるができる資源です。そして雨は地球の中を循環しながらすべての生命を支えています。私たちは世界各地のさまざまな雨水利用の英知を学びながら、都市の水源の自立をはかり、都市の水循環をよみがえらせ、都市の再生をはかりたいと思います。

日本には世界の年間平均降水量の二倍近い雨が降ります。しかもおよそ四日に一度は雨が降ります。世界の中でこんなに雨に恵まれた国はありません。このことは日本の独特的の雨の文化を育むことを可能にしました。夏の夕だちのすがすがしさ。虹の美しさ。雨打の音。雨蛙の歌。四季折々の雨の匂い。雨乞いとてるてるぼうず。雨に親しみ、雨と遊び、雨に恐れ、雨を敬う。雨こそが人間の豊かな感性を育んできたといつても過言ではありません。私たちは、1994年の雨水利用東京国際会議をきっかけに、世界の雨の文化を学びながら、もう一度このすばらしい日本の雨の文化を暮らしの原点から見直し、都市と雨の共生を目指します。

私たちは、雨水をもっと大切にしたい、もっと有効に利用したいという思いを込めてここに高らかに宣言します。

- 世界の年間平均降水量の二倍近い雨が日本に降ります。私たちは、この雨を利用し、水源の自立を目指します。
- きれいな空にはきれいな雨が降ります。私たちは生命や文化を育む雨を汚さないようにするために、きれいな空を取り戻します。
- 都市は雨を排除してきたため、熱い、乾いたまちになってしましました。私たちは雨を地下に浸透して都市の水循環をよみがえらせ、まちにうるおいを取り戻します。
- 私たちは墨田区で開かれたこの会議をきっかけに、長い年月をかけて培われてきたすばらしい日本の雨の文化を見直し、雨と共に生きるまちをつくります。
- 私たち雨水利用を行う世界中の人たちと手を組み、雨水利用で地球を救う輪を広げます。

1994年8月6日

分科会1

雨とネイチャーポジティブ ～雨水を活用した都市緑化の可能性 立体的緑地と平面的緑地による生物多様性の回復

【分科会趣旨】

墨田区は多くの地域が海拔0m以下そのため、雨水が地中に浸透しにくく、内水氾濫のリスクが高いという課題があります。しかし、この環境を活かして新たな可能性を模索することができます。例えば、雨どいを活用した立体緑化により、視覚的に豊かな緑を増やし、緑視率を向上させるとともに、雨水を有効活用できます。

本分科会では、「雨庭」や「都市農地」といった平面的緑地、「雨樋プランター」や「屋上緑化」といった立体的緑地の試みを共有し、都市の生物多様性の回復と雨水を活かしたネイチャーポジティブな都市形成の方法論について議論します。

分科会1 コーディネーター

霜田 亮祐 千葉大学大学院園芸学研究院准教授（PhD）

【プロフィール】

ランドスケープ・アーキテクト

専門：風景計画学、都市生態学

ハーバード大学 GSD ランドスケープアーキテクチャ学科修了。

2013年 HUMUS landscape architecture 設立。設計作品に、伊勢神宮式年遷宮記念せんぐう館ランドスケープ（日本造園学会賞）、天王寺公園エントランスエリア「てんしば」（グッドデザイン金賞）、他。

著作に、『テキストランドスケープデザインの歴史』（学芸出版社 2010）（共著）他。



【話題提供の要旨】

都市は人間のためだけではなく、動植物も含めた生き物の「生息地」であると考え、このような生態を象徴する空間を創造することを目的とした、時とともに移ろっていく風景づくりや、人間とそれ以外の生き物が共存する小さな生態系が存在している生物多様性の基盤となる空間を増やすことなどに取り組んでいます。

具体的には循環型社会に合わせた「サーキュラー・デザイン」による都市の緑化手法について、墨田区での雨水を生かした環境負荷の少ない粗放的で創造的な屋上緑化の実証実験の様子も紹介します。

分科会1 話題提供

牛久 光次 NPO 法人寺島・玉ノ井まちづくり協議会 理事長

[プロフィール]

建築の設計施工を行う株式会社牛久工務店の代表。

建築建材で化学物質過敏症が話題になったのが 1994 年頃。それをきっかけに自然素材活用と環境配慮型の自然共生住宅を意識し採用。

具体的には壁面、屋根緑化・雨水活用・浸透性舗装など、太陽光による採光システムの普及事業にも着手する。NPO では、2017 年から、

まちづくりの一環として農地の無い墨田区に、宅地跡地を市民の手作りによって 3 年計画で「たもんじ交流農園」を創設し、運営をしている。



[話題提供の要旨]

都市部の暮らしの身近にこそ、自然環境に触れられる場所が必要であることを「たもんじ交流農園」を創設して実感しました。空を見上げ、土に触れ、水面・水音で安らぎ、枝葉を揺らす風を感じ、緑を身体に採り、生き物を愛でる。そんな場所こそ、都市部の下町には特に必要ではないでしょうか？

ビオトープに螢を自生させたい！という願いから水循環の取り組みが始まりました。

焼家の樋から雨を採り、地下水を汲み上げ、淀みの無い水の循環によって水中生き物たちの生態環境を整える。そんな実践から学んだ水循環のしくみを通じ生で感じることで、生物多様性を身近に考えることが出来るかもしれません。

分科会1 話題提供

角屋 ゆず 一般財団法人世田谷トラストまちづくり
トラストみどり課 主任

[プロフィール]

学生時代、建築系研究室にて「大地の芸術祭越後妻有トリエンナーレ」へ参加。夏休み、新潟県十日町市に通い、地域の皆さんとインスタレーションを仕掛け、ご飯もご馳走になる夏休みを過ごす。以後、暮らしに根付いたまちづくりの支援を志し、現職(2007～)。共著に『素が出るワークショップ～人とまちへの視点を変える 22 のメソッド(2020/学芸出版社)』、『まちづくりプラットフォーム～ヒト・カネ・バショのデザイン(2022/萌文社)』。



[話題提供の要旨]

世田谷区は宅地が 7 割を占める住宅都市です。私たち財団では、市民が自分たちの住むまちの課題を解決したい、より良くしたいという発意にたいして、それを支援、とりわけ家や庭に関する仕組みを持っていました。2020 年度より「自分でもできる雨庭づくり」の取り組みがスタート。ガーデニングの延長線上で、個人が自宅で手づくりできる雨庭は、豪雨対策だけでなく、植物を育て生きものと出会う楽しみを感じることができます。人材育成講座「世田谷グリーンインフラ学校(区から委託)」は 3 年間で 137 名の応募があり、61 名が卒業しています。4 年間の実践とこれからについてお話しします。

分科会1 話題提供

竹内 智子 千葉大学大学院園芸学研究院 准教授



[プロフィール]

東京生まれの東京育ち。大学で緑地学を専攻、大学院修了後東京都に入庁。造園職として公園緑地行政に従事。在職中、東京のグリーンベルト政策の研究で博士号を取得。2020年より現職。前職で担当した「都市計画公園・緑地の整備方針」(2006)では、隣の部署で進めていた「豪雨対策基本方針」(2007)と連携、豪雨対策に「緑の保全・創出」を位置づけた。以来、緑と水を繋ぐ実効性ある政策づくりをテーマの一つにしている。専門はランドスケープ学。

[話題提供の要旨]

雨水利用に関する行政の政策は、河川、下水、公園緑地、環境、土地利用と多岐に渡っています。雨水タンクやレインガーデンなど、多様な主体がそれぞれ個別に積み重ねている取組や、公園・河川・下水・道路・再開発などの大規模な公共事業を、グリーンインフラ・ネットワークとしてどのように広域的にも効果的に機能発揮していくのか。緑の基本計画や広域計画などの事例を元に、政策面からの実効性のある仕組みづくりを皆さんと考えていきたいと思います。

分科会1 話題提供

向山 雅之 株式会社竹中工務店 設計本部
アドバンストデザイン部 ランドスケープグループ長



[プロフィール]

NPO 法人雨水まちづくりサポート理事、千葉大学園芸学部非常勤講師。大学・大学院で建築デザインを学び、ランドスケープデザインの仕事に移行。人が自然に対して適切に関わることで人と自然の健康を保ち、自然共生社会の実現をめざしています。

[話題提供の要旨]

私たちは、プロジェクトサイトとその周辺の自然を読み解き、自然が持つ多様な機能を活かした機能的で快適な空間提案を行い、適切な利用を継続するために、関係者と共に土地利用のライフサイクル全般に関わることを目指しています。

2022年12月に決定した昆明・モントリオール生物多様性枠組では、2050年ビジョン「自然と共生する世界」実現のため、2030年ミッション「ネイチャーポジティブ」が掲げられ、ビジネスを通じた解決策が注目されています。人も生き物の一員として自然を愉しみ価値を創出できるビジネスについて考えています。

分科会1 話題提供

中山 淳一 墨田区 資源環境部 環境保全課長



[プロフィール]

昭和60年 墨田区役所入庁、自治振興課交通安全係に配属され
放置自転車対策等を皮切りに区役所人生をスタート。
情報システム担当課長、防災課長。令和5年4月より現職。

[話題提供の要旨]

緑は、人々の心にやすらぎとうるおいをもたらしてくれるだけではなく、育成する喜びのほか、庭先や窓辺を装飾することを通じて、多くの人々に感動を呼び起こす芸術性さえも持っています。かつて墨田区の緑は、墨堤の桜や神社の杜（もり）に見られたように、人々の生活と深く関わり合いながら育まれてきました。

しかし、関東大震災と戦災、その後の都市化の進行に伴い、区内の樹木等の大部分は次第に失われてしまうこととなりました。これに対応するため、区では緑の回復をめざして昭和47年3月に「緑化宣言」を行い、各種緑化施策を展開しています。墨田区の緑化施策等についてお話しします。



分科会2

ゼロメートル地帯から考える雨と防災

【分科会趣旨】

墨田区は荒川や隅田川などの河川に囲まれた地域で、区域の広範囲が海拔ゼロメートル地帯となっており、荒川などが氾濫すると区内の大部分が浸水する地域と言われております。また、かつて区内は、たびたび都市型水害に見舞われ、それを契機に雨水活用が促進されたという側面もあります。そのほか、本年1月1日に発生した能登半島地震においては、断水時に雨水が活用されたケースも報告され、あらためて有事の際の雨水活用が注目されております。

このようにゼロメートル地帯“すみだ”で、あらためてゼロから雨と災害の関係や必要な対策について考えます。

分科会2 コーディネーター

菜原 航 墨田区 資源環境部 環境政策課長

【プロフィール】

平成20年4月に墨田区役所入庁、福祉保健部高齢者福祉課に配属され、その後、防災課、総務課、子ども施設課で経験を積む。
令和5年4月に課長昇任し、資源環境部副参事（資源循環推進担当）
を経て、令和6年4月より現職。



【話題提供の要旨】

墨田区の雨水活用の歴史を振り返ると、昭和56年10月22日、関東南東海上を通過した台風24号による被害まで遡ります。当時の内水被害（都市型水害）は深刻で、両国・錦糸町・押上のエリアでは床下浸水1504世帯、床上浸水39世帯が被害を受ける事態となりました。

このような被害を受け、本格的に取組が始まった雨水活用は『流せば洪水、ためれば資源』という合言葉とともに、今では地域に根差したものとなっております。

現在では、水害だけでなく渇水時への備えや地震等でのライフライン寸断時の水資源としても雨水は重要なものとなっているため、ゼロメートル地帯から防災対策としての雨水活用を考えていきます。

分科会2 話題提供

佐原 滋元 一寺言間を防災のまちにする会 副会長



[プロフィール]

防災生活圏モデル事業として発足した「一寺言間を防災のまちにする会（通称 一言会）」の活動に当初から参加。

雨水利用施設「路地尊」の設置などに取り組む。

NPO 法人雨水市民の会副理事長。

向島百花園内の売店「茶亭さはら」隠居

[話題提供の要旨]

一言会は、倒壊・火災等の地震災害に対処するための組織です。活動当初、被災時の飲料水が問題となりました。地下水は、工場廃液が流れ込み、飲料水にならないことから雨水貯留施設「路地尊」を考えました。

近年、大通り沿いにはビルの壁ができ、細街路も徐々に拡幅されましたが、ワンルームマンションや民泊の急増など、一番大切な「助け合う気持ち」が薄れることが心配です。

関東大震災後の急激な市街化以前、まちの災害は「水害」でした。荒川放水路や外郭堤防、ポンプ場の整備により、今では水害はほとんど意識されません。水害体験のある世代として、まちの水害につき考えたいと思います。

分科会2 話題提供

三橋 さゆり 一般財団法人日本建設情報総合センター 審議役



[プロフィール]

旧建設省（国土交通省）に入省後、河川の仕事を中心に従事し、水管理・国土保全局水資源部長を最後に退官。2007年ダムカードを世に出す。2019年東日本台風時は利根川上流河川事務所長。気象予報士。応用地形マスターII級。雑誌「東京人」10月号（9/3発売）に「図面から読み解く岩淵水門（仮題）」を寄稿。9月末に「山の向こうから水を引け！地図と地形でわかる日本の川と流域外分水」を実業之日本社より上梓予定。

[話題提供の要旨]

令和元年東日本台風では関東全域に未曾有の雨が降った。利根川では急激な水位の上昇により計画高水位を超える事態となったが、かろうじて破堤氾濫は避けることができた。1947年のカスリーン台風以降、様々な手を尽くして進めてきた治水事業の積み重ねが、ちょうどぎりぎり間に合ったかたちである。

東京都心はもう長いこと大氾濫を経験していないが、今後は地球温暖化の影響でさらに氾濫リスクは増大する。それに我々はどう備えていったらよいだろうか。

分科会2 話題提供

阿部 京 たかし 東京都下水道局 計画調整部
再構築・浸水対策推進担当課長



[プロフィール]

平成11年4月 東京都入都
平成30年4月 東京都下水道局中部下水道事務所再構築推進課長
令和2年4月 東京都下水道局第一基幹施設再構築事務所工事第一課長
令和4年4月 東京都下水道局計画調整部再構築・浸水対策推進担当課長

[話題提供の要旨]

東京都では、市街化の進展に伴う都市型水害に対応するため、河川、下水道の整備に雨水流出抑制などを加え、総合的な治水対策に取り組んできました。今後、気候変動によって激甚化・頻発化する豪雨に対応するため、豪雨による水害に対する自助・共助・公助を合わせた総合的な治水対策の基本的な考え方を示す「東京都豪雨対策基本方針」について、令和5年12月に改定しました。

今回は、基本方針の主な改定内容および下水道整備の取組を中心に話題提供を行います。

分科会2 話題提供

岩本 健一郎 墨田区都市計画部 危機管理担当 防災課長



[プロフィール]

平成8年4月墨田区入庁
平成30年4月産業観光部経営支援課長、令和3年4月地域力支援部文化芸術振興課長、令和5年4月から現職
趣味：映画、オートバイ、旅（これまで国内46都道府県、国外50か国歴訪）

[話題提供の要旨]

令和元年東日本台風により、荒川の河川水位は氾濫危険水位の7.7mにせまるものであった。この件は江東5区において荒川氾濫に対する危機意識を大いに高めることとなった。現在、国の想定では荒川が氾濫した場合、江東5区はほとんどが浸水することとなっており、住民250万人の避難が大きな課題となっている。区では区報やSNS等で情報発信を行うとともに、江東5区で連携して意識啓発を目的にシンポジウムやワークショップを行っている。

分科会3

くらしの中の雨水～見える、楽しむ、活かす

【分科会趣旨】

雨の日は好きですか？

出かけるのも億劫だしイヤだなあと感じる方も、雨を集めて使う楽しみを知ると雨が待ち遠しくなるかもしれません。40年以上雨を貯め続けている墨田区には、大小合わせて800近く、総容量26,000m³以上の雨水タンクがあります。それらを活かして目に見える雨の流れでまちの景色を作ったり、貯まった雨の量の変化をリアルタイムに見える化する取り組みが始まっています。雨水の力を楽しみ、活かして、災害を防ぐしなやかなまちづくりを実現するアイデアを共有し、市民・企業・行政・学会が連携しながら、雨と共にくらす未来を考えます。

分科会3 コーディネーター

笹川 みちる NPO 法人雨水市民の会 理事



【プロフィール】

NPO 法人雨水まちづくりサポート理事、東京財団政策研究所主席研究員。2008年からすみだ環境ふれあい館のスタッフとして、雨水活用・水循環・グリーンインフラをテーマとした普及啓発活動に従事し、海外での雨水活用普及、事例調査等にも参画している。親子・市民向けのツール開発、イベント企画、自治体の講座企画等に携わり、生活、アート、まちあるきといった多様な切り口で水循環の普及に取り組んでいる。

【話題提供の要旨】

雨水市民の会では、活動拠点である墨田区で2022年から「下町×雨・みどりプロジェクト」を実施しています。4年間の計画で、墨田区がこれまで取り組んできた雨水貯留の実態調査、雨とみどりを組み合わせた小さなグリーンインフラの実装、これらの取り組みの効果の検証を行っています。

雨を積極的に使ったり、雨が創る景色を楽しむ活動を進めると同時に、市民それぞれの取り組みと国・自治体レベルの治水や都市計画をつなぐ仕組みを、セクターを超えた連携でつくり出して行きたいと考えています。

分科会3 話題提供

金谷 直政 京島地区まちづくり協議会、有限会社かなや設計 代表



[プロフィール]

北海道北見市生まれ、一級建築士、京島三丁目北町会会長、京島まちづくり協議会副委員長として地域の防災活動に参加。22年前に墨田区に事務所を開設。主に墨田区内で、医療福祉施設・工場・宿泊施設・住宅等の設計を行っている。建築デザインと省エネルギーを一体に考え、自然エネルギーを活用した設計を進めている。制約の多い都市部での自然エネルギー利用の方法として、地中熱を熱源とする冷暖房設備の開発を行っている。

[話題提供の要旨]

墨田区京島地区の京島まちづくり協議会では、木密地域の防災対策として水源を確保するために「水活用勉強会」を立ち上げ、地域の雨水タンクの総量について確認し、災害時を想定した雨水利用の可能性について話し合いをしてきた。

その中で、災害時の水活用についての方向性を確認し、京島地区の防災対策として井戸水も含めた水活用を進めている。昨年建替えられた京島三丁目北町会の町会会館では、雨水市民の会と連携し、災害時に加え、日常においても雨水を活用する方法としてトイレの洗浄水に使う試みを進め、現在運用されている。

分科会3 話題提供

木下 剛 千葉大学大学院園芸学研究院 教授



[プロフィール]

博士（学術）、専門は造園学。近年はグリーンインフラの制度設計、グリーンインフラの概念規定に係る研究に勤しむ。日本造園学会グリーンインフラ研究推進委員会委員長、国土交通省グリーンインフラ懇談会委員、早稲田大学創造理工学研究科非常勤講師、千年村プロジェクト共同代表等を務める。英国エдинバラ・カレッジ・オブ・アート客員研究員（2001年度）、英国シェフィールド大学ランドスケープ学科客員研究員（2016年度）。共著に、『決定版！グリーンインフラ』など。

[話題提供の要旨]

墨田区京島地区で取り組んでいる雨樋プランターの普及に向けた研究プロジェクトについて紹介します。雨樋プランターは植物栽培を楽しみながら、雨水の利用や流出抑制に貢献できるが取り組みで、米国では行政から設置助成が受けられる都市もあります。京島地区のある墨田区北部地域は昔から園芸活動が盛んで地域の景観的特徴ともなっています。墨田区はまた雨水利用の先進地域でもあり、園芸と雨水の文化を統合できるという意味で、雨樋プランターは墨田区にふさわしい取り組みと考えております。

分科会3 話題提供

矢神 卓也 株式会社建設技術研究所 RisKma 担当



[プロフィール]

2001年より株式会社建設技術研究所にて、建設コンサルタントとして主に河川計画業務（治水計画の検討、洪水ハザードマップの作成など）および河川防災情報提供事業に長年従事。現在は、水システム部流域情報サービス室長として、水災害リスクマッピングシステム「RisKma（リスクマ）」の提供や、IoT技術を活用した河川監視観測パッケージ「みるわん」の開発を行っています。

[話題提供の要旨]

当社が提供する「RisKma」や「みるわん」は、雨雲の予測情報や気象庁の「キキクル」、リアルタイムの河川水位変動、監視カメラ映像など、水災害対応に必要な情報をWEBサイト上で一元的に扱うことができるシステムです。

当社は、これらの技術を活用して、雨水市民の会が推進する「雨水管理」プロジェクトに今年から参画することになりました。墨田区内の雨水タンクの水位を計測し雨水の流れをリアルタイムで可視化することや、降雨予測情報も活用して流出抑制対策に役立てるなど、雨水貯留の大きな可能性を探っていきます。

分科会3 話題提供

大川原 雄一郎 東京都 都市整備局 都市基盤部 調整課
統括課長代理（施設計画担当）



[プロフィール]

豪雨対策に関する基本的な考え方を示す東京都豪雨対策基本方針を所管する業務に従事しています。

豪雨対策の基幹となる河川や下水道への負荷を減らす雨水の流出を抑制する流域対策の促進に取り組んでいます。

最近では、雨水流出抑制につながるグリーンインフラの導入手法について考えています。

[話題提供の要旨]

雨水と一緒に暮らすことを考えた際に、大雨が降った際のどうなるのか気になるかと思います。最近では、気候変動によって雨が増え強くなっていると感じている人も多いと思います。現状、豪雨対策という観点でどのように考えているのか？どのような対策を進めているのか？を紹介します。

雨は、地域のみなさんに広く等しく降ります。対策の基本的な考え方を共有し、それぞれが何ができるのか一緒にかんがえることができればと思っています。都市（まち）の中で、「たまる・しみこませる」取組がどのように進められるか？その取組が暮らしの中で活かされるものになれば、持続発展的な地域の活動や文化になっていくのではないか？という想いを込めて『雨水しみこみプロジェクト』のムーブメントにつなげていきたい。

分科会3 話題提供

南 昌子 NPO 法人雨水市民の会 理事



[プロフィール]

東邦大学薬学部卒。卒業後都内の保健所に検査技師として40年間勤務。1994年、自宅を建てるときに化学物質となるべく使わず、国産材を使用し雨水利用と太陽光発電を取り入れた環境共生住宅を建てた。1994年の雨水利用東京国際会議に実行委員として参加、雨の絵本ひろばを担当。以来雨水市民の会の活動として絵本の読み聞かせや自然観察、理科の実験などを行い現在に至る。

[話題提供の要旨]

1994年に自宅を建てた時に、地下に20tの雨水槽を作り、トイレの流し水と庭の散水などに使っている。94年は大渴水の年だったが、梅雨時に満水になった雨水を気兼ねなくジャンジャン撒くことができた。雨水を使い始めて30年、一度水をくみ上げるポンプを交換したくらいでメンテナンスはいらない。しかし、良いことばかりではない。ある日、水槽のふたを開けてみたらボウフラが元気よく泳いでいた。ナメクジも集まっていた。



分科会4

飲む雨水

～インフラとヒトの変化から考える 飲むあまみずの近未来

【分科会趣旨】

人類は古代から雨水を飲用水源として活用してきた一方で、文明が進化した現在では、雨水を飲む習慣から離れて久しい。

遠くの水をポンプとパイプで送水する近代の水道インフラが整備されたこと、および雨水を「飲用水」として扱うための法的・技術的なインフラが不足していたことが、我々が雨水から離れた原因であると考えています。

今、人口減少やインフラの老朽化が進み、近代インフラで繋がっていた人が再び過去のように離散する時代が到来しつつある中で、飲む雨水に再び注目が集まっています。

本分科会では、(1) 雨水を飲まなくなったのは、いつ頃からなのか、なぜなのか？という問い合わせ初めて、(2) 雨水を飲めるようにする最新の技術の進化について、ご紹介いただきます。さらに、(3) 近代水道の次に訪れる、飲む雨水を活用した未来型水道システムの形を議論したいと思っています。

分科会4 コーディネーター

山村 寛 中央大学 理工学部 人間総合理工学科 教授

[プロフィール]

香川県出身。2008年に北海道大学で膜を使った浄水処理に関する研究で博士課程を修了後、旭化成で水処理膜を作る研究開発に従事。2012年から中央大学に着任し、現職に至る。浄水処理や下水処理に関する研究の他、海水淡水化膜のアップサイクル利用、PFASの処理・分解、カーボンニュートラル型上下水道システム、水インフラへのAI活用についても研究を展開。現在、雨水市民の会理事やJapan Water Aid理事などに就任。



[話題提供の要旨]

人類は古代から雨水を飲用水源として活用してきた歴史が刻まれている一方で、文明が進化した現在では、雨水を飲む習慣から離れて久しいのではないか？遠くの水をポンプとパイプで送水する近代の水道インフラが整備されたこと、および雨水を「飲用水」として扱うための法的・技術的なインフラが不足していたことが、我々が雨水から離れた原因であると考えています。

今、人口減少やインフラの老朽化が進み、近代インフラで繋がっていた人が再び過去のように離散する時代が到来しつつある中で、飲む雨水に再び注目が集まっているように感じています。雨水を飲むことと水道インフラとの関係について、複数の論点を交えて話題提供させていただきます。

分科会4 話題提供

石山 民子 NPO 法人アジア砒素ネットワーク 理事



[プロフィール]

社会福祉を学んでいた学生時代にバングラデシュの農村部を訪れたのがきっかけでバングラデシュの文化と暮らしに関心を持ち、ベンガル語を学び始める。2001年からは宮崎市に本部を置く国際協力NGOのアジア砒素ネットワークの職員として、バングラデシュの水供給、保健（非感染性疾患対策）、持続可能な食料生産などの分野での活動を担当している。ヒ素汚染のある地域に暮らす人々に雨水を飲むことを勧めていたことがきっかけで、川越市の自宅でも雨の水を貯めるようになる。雨活歴18年。

[話題提供の要旨]

バングラデシュでは沿岸部を除くと、雨を飲む習慣はありません。

農村部の水道普及率は3%で、井戸水を使う人がほとんどです。私がよく訪れる地域では「この地域の人は雨水は飲まない」としばしば耳にしました。降った雨を飲むのは嫌なのに、一度地下に潜った水は安心、というは何とも不思議な気もします。しかも、地下に入ることで水はヒ素や塩など有害物質に汚染されてしまいます。

しかし、近年これまで雨を使ってこなかったコミュニティでも雨の飲用が広がっています。気持ちよく、安心して飲んでもらうには何が必要か？分科会で一緒に考えたいです。

分科会4 話題提供

小熊 久美子 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 教授



[プロフィール]

専門は環境工学。浄水処理技術の開発・評価・技術提案を行うほか、従来型の水道に限らない多様な水のくばり方を意味する“水供給システム”的研究に従事。遠隔地（山間集落、離島など）でも安全で持続可能な水供給を実現するため、小規模分散型の水供給システムを国内外で技術実証し、一部で装置の導入に結実している。

[話題提供の要旨]

水道普及率が98%を超えた日本において、さらに普及率向上を目指すことの社会的合理性が問われています。また、水道が未整備であるか水質管理に課題の多い中低所得国において、高所得国（先進諸国）と同じ大規模水道が最適解とは限りません。このような問題意識から、これまでに国内外の様々な地域で水供給の実態を調べてきました。講演では、各地の様子を写真を交えてご紹介します。また、現地で見聞した「困りごと」をご紹介し、多様な水供給の在り方や目指すべき方向を考える端緒になればと思います。

分科会4 話題提供

鎌田 芳久 有限会社鎌田工業所、あまみず水道屋



[プロフィール]

1996年より東京都三鷹市で水道屋をはじめる
2009年塩ビ管雨水タンク製作を始める
同年、村瀬誠氏に出会い
2011年よりバングラデシュプロジェクトに関わる
ペットボトル雨水タンクも含め15基製作
2023年墨田区にて階段裏の雨水タンクを製作
水道屋として水で社会貢献をという気持ちで雨水活用を行っています

[話題提供の要旨]

雨水タンクを設置しないことには雨水活用は始まらない
生活動線を邪魔せずにいかに雨水タンクを設置できるか
一般家庭をメインにデッドスペース設置を推進
水道のような水圧確保が難しく、設置場所・ポンプの活用等で対応するしかない
雨水設備は水道設備と別物という観念が強く作業内容に大差がなくとも別工事となり、
調整が難しい
計画段階から組み込めば見た目にもスッキリした施工が可能になる

分科会4 話題提供

前田 瑠介 WOTA 株式会社 代表取締役



[プロフィール]

徳島県出身。東京大学工学部建築学科卒業、同大学院工学系研究科建築学専攻（修士課程）修了。小学生の頃から生物学研究を開始し、中学生で水問題に関心を持ったことをきっかけに、高校時代に水処理の研究を実施。大学では都市インフラや途上国スラムの生活環境を、大学院では住宅設備（給排水衛生設備）を研究。ほか、デジタルアート等のセンサー開発・制御開発に従事。WOTA CEOとして、水問題の構造的解決を目指す。

[話題提供の要旨]

WOTAは、人口減少や配管老朽化の加速による上下水道問題の解決策として、上下水道に依存することなく各建物単位で排水を再生・循環利用することを可能にする、住宅向け「小規模分散型水循環システム」の開発・実証事業を行っています。墨田区では2023年2月から10月末の間で実証実験を行い、現在は愛媛県今治市・伊予市・西予市の3市と東京都利島村、および海外ではカリブ海にあるアンティグア・バーブーダにて実証を進めています。

セッションⅢ

「雨水は世界を救うか？」

特別講演 「雨の恵みと災いーわたしたちの都合」

パネルディスカッション 「雨水、文化、都市の未来を語る」



雨を活かして、
未来へつなごう。

第14回 雨水ネットワーク全国大会2024

In
すみだ

セッションⅢ

「雨水は世界を救うか？」

《進行》



笹川みちる（雨水市民の会）

1994年にここすみだリバーサイドホールで開催された「雨水利用東京国際会議」は、「雨水利用は地球を救う」をテーマに掲げました。それから30年、私たちと雨との関わりはどうに変わり、今後どのような未来を描くべきでしょうか。

気候変動の影響により、短時間に集中して強い雨が降る頻度が増加し、今後もその傾向は続くと予測されています。日常生活でも雨の降り方が変わってきたことを実感するようになりました。

雨を蓄え、浸み込ませる取り組みが官民で広がり、雨を捉える価値観も変わってきました。人間を中心に雨を有効利用する「雨水利用（Rainwater Utilization）」から、自然の生態系の一部として雨を借り、水循環に返す「雨水活用（Rainwater Harvesting）」へとシフトしています。

墨田区でも、家庭用の小型タンクからソラマチのような大規模施設の貯留設備まで、多様な取り組みが進行中で、その動きは日本全国に広がっています。技術の進展により、様々な主体やスケールの取り組みが可視化され、新たな制度化を見据えた社会実装も進んでいます。

締め括りのセッションでは、2024年のストックホルム水大賞を受賞された東京大学教授、沖大幹氏の特別講演と、それに続くパネルディスカッションで、雨と私たちの関わりの未来を考えます。

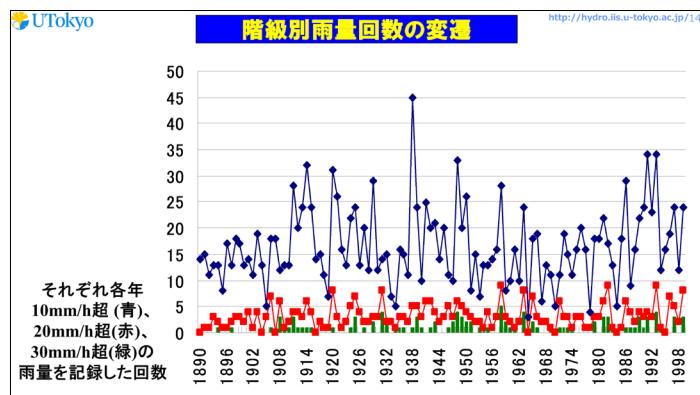
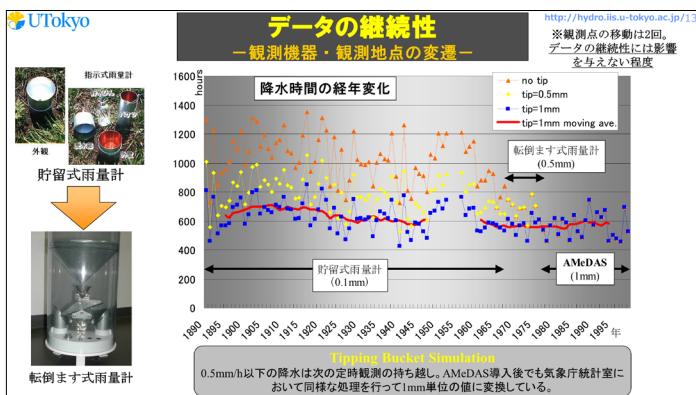
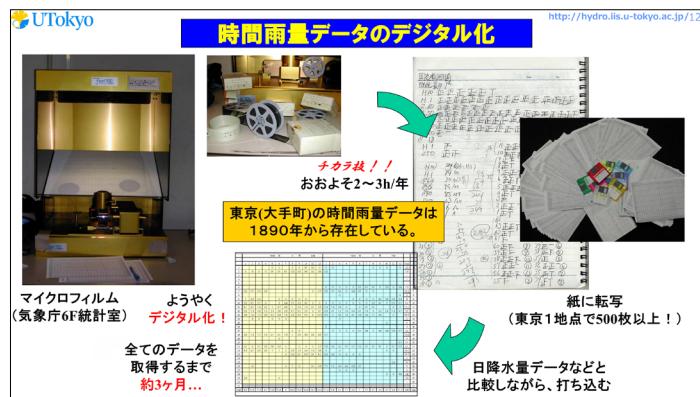
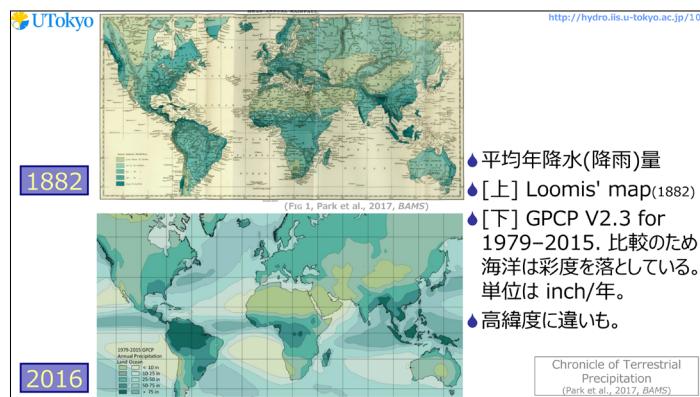
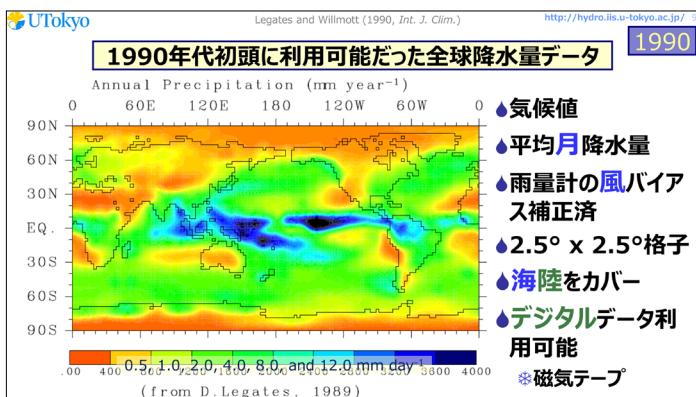
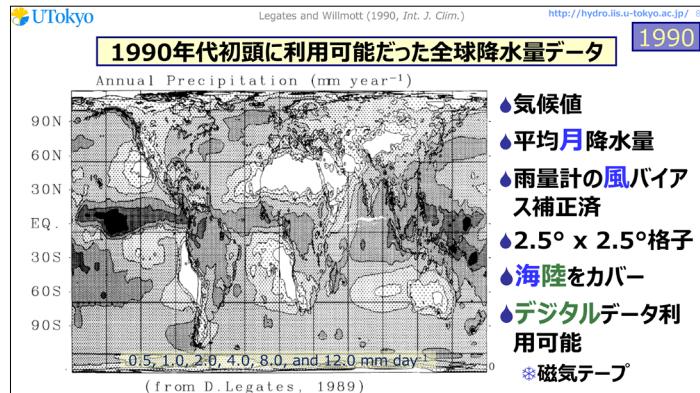
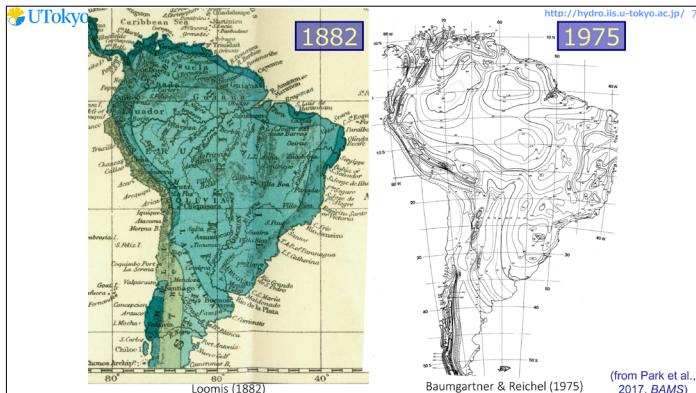
特別講演 「雨の恵みと災いーわたしたちの都合」

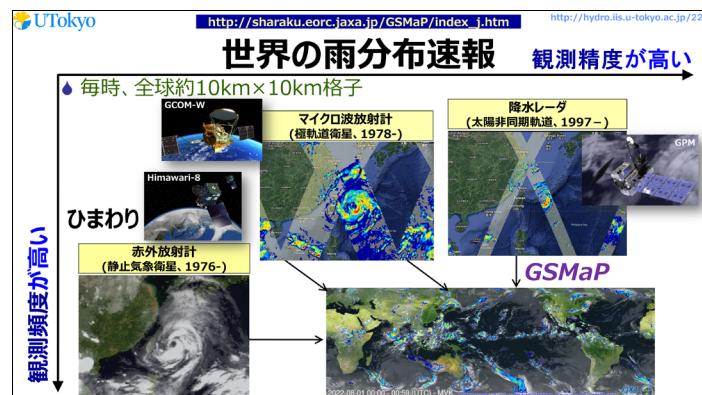
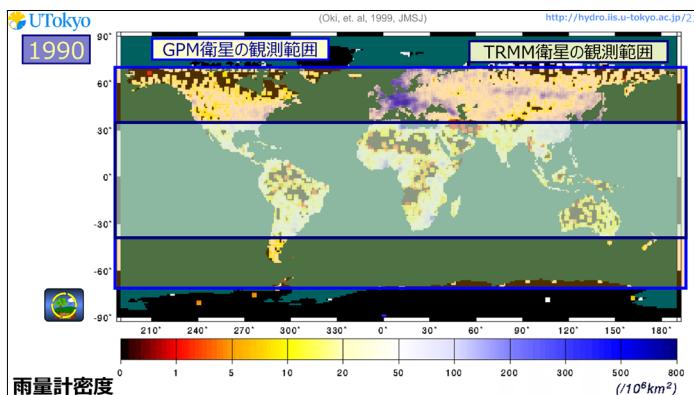
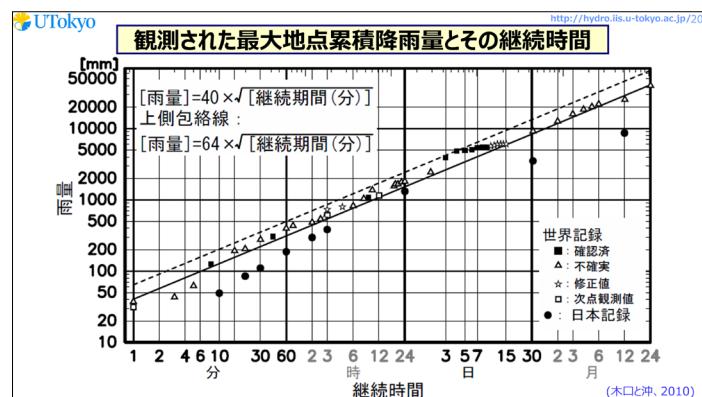
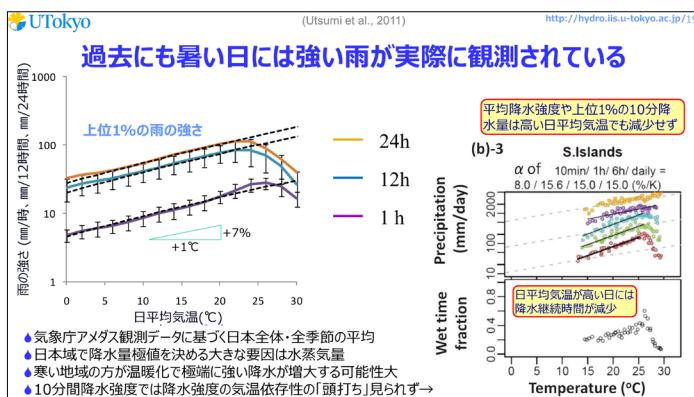
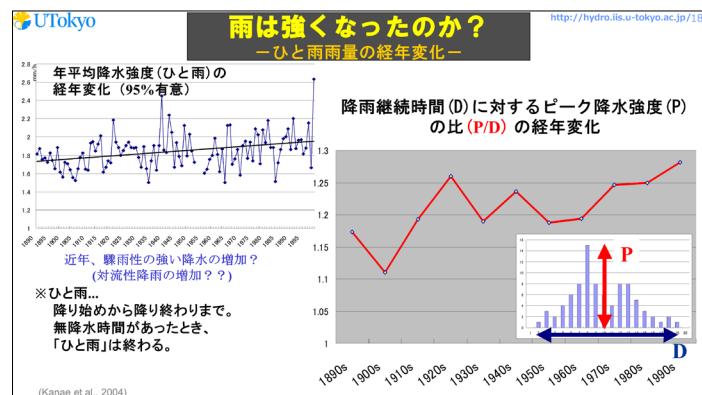
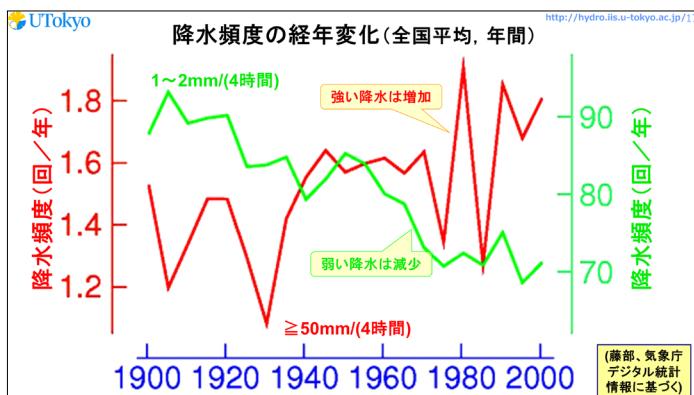
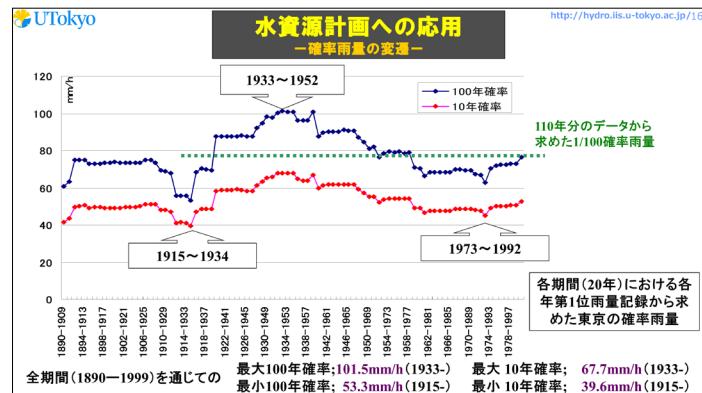
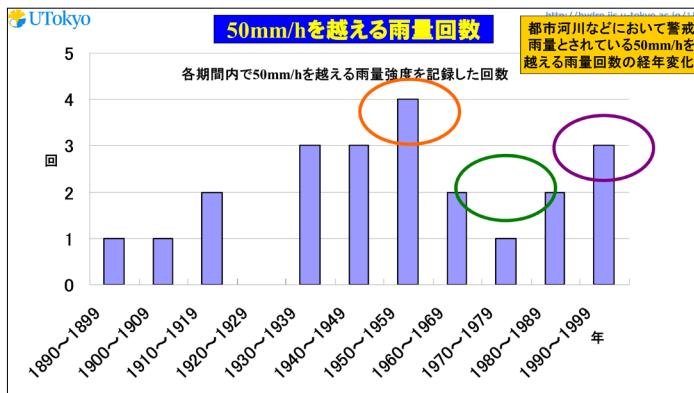
沖 大幹（水文学者、東京大学大学院工学系研究科 教授）

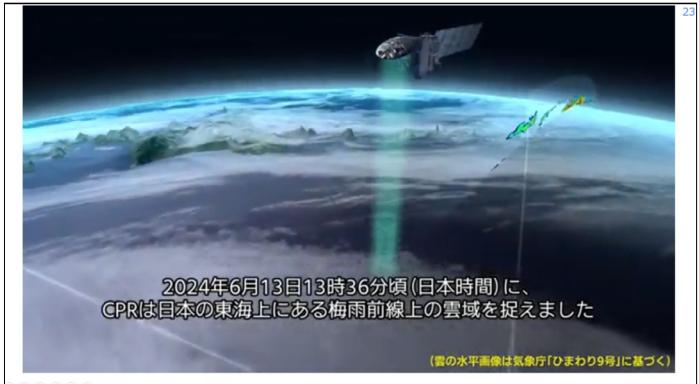
※プロフィールは、P.35 に掲載しています。



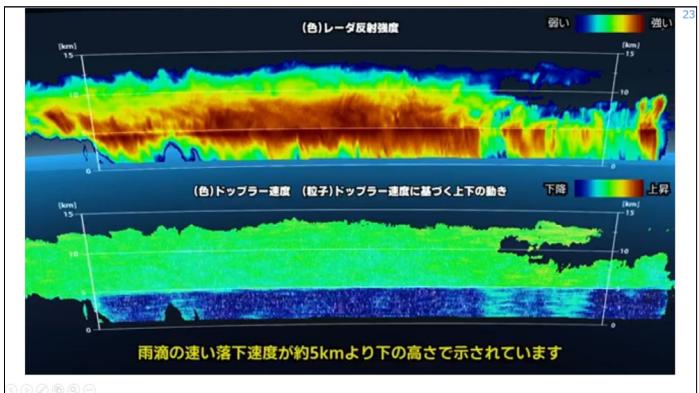
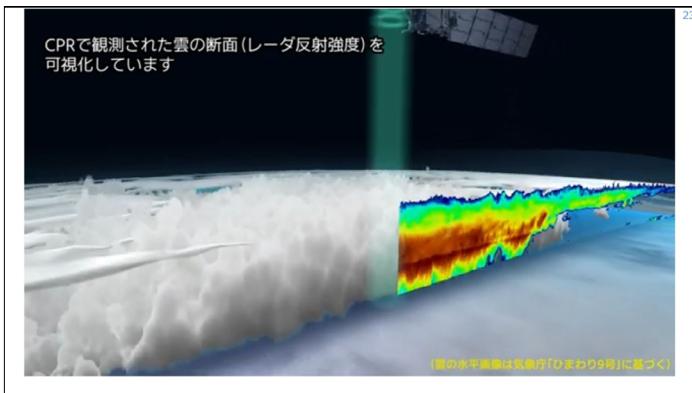
The diagram illustrates the internal mechanism of a rain gauge when it is tilted. A yellow arrow indicates the direction of tilt. Labels in Japanese point to various parts: '雨' (rain) at the top, '助炭' (auxiliary charcoal) and '受水器' (water collector) on the left, 'ろ水器' (strainer) on the right, '排水筒' (drain pipe) and '排水' (drainage) at the bottom, and '転倒します (0.5mm相当の雨で転倒)' (tilts over) in the center.







◇スライドをクリックすると CPR の観測画像が YouTube でご覧頂けます。



<http://hydro.iis.u-tokyo.ac.jp/25>

	m ³ /人/年		m ³ /人/年
世界平均	7,000	日本平均	3,400
中国	1,940	関東地方	850
エジプト	573	関東臨海部	410

期間 昭和39(1964)年7月10日-10月1日 **日数** 84日間 **給水制限** 最大50% **年降水量** 1140.2 (mm/year)

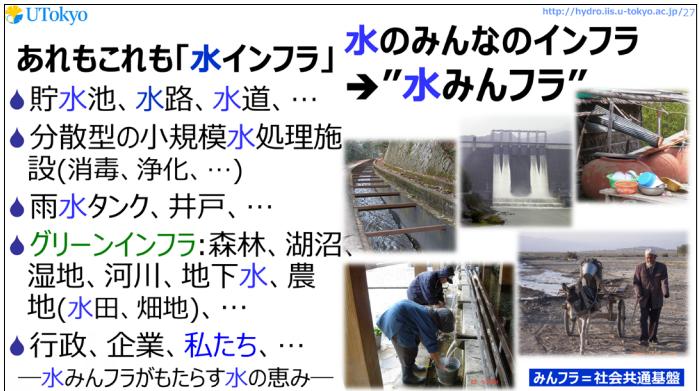
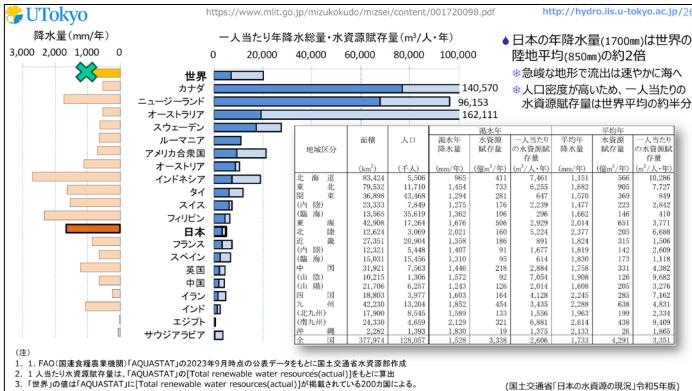
期間 平成6(1994)年7月29日-9月8日 **日数** 42日間 **給水制限** 最大15% **年降水量** 1131.5 (mm/year)

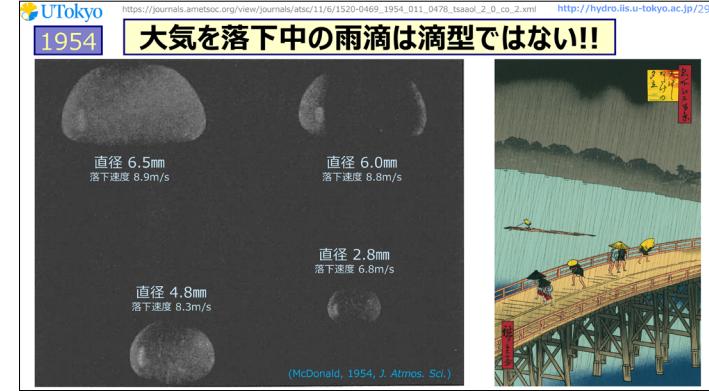
日本は水に恵まれた国か?

- 年降水量は陸地平均の約2倍だが
 - ※急峻な地形で流出は速やかに海へ
 - ※人口密度が高いため、一人当たりの水資源賦存量は世界平均の約半分

オリンピック渴水 → 東京沙漠

東京沙漠 <http://www.watertower.meteo.kochi-u.ac.jp/recentinfo/2021/07/05.html#05.pdf>





UTokyo <http://hydro.iis.u-tokyo.ac.jp/30>

綻びる“水みんフラ”

- ◆ 水みんフラの老朽化
 - ※ 耐用年数(40年)を超えた水道管 20.6%
 - ※ 耐用年数を超えた基幹農業水利施設 2割
 - 毎年約500施設が新たに耐用年数を迎える
- ◆ “水みんフラ”的不具合
 - ※ 水管橋の崩落
 - ※ 頭首工の機能停止

年間	
上水道の漏水・破損	2万件以上
下水道管に起因する道路陥没	4~5千件
農業水利施設の突発事故	1千件以上

(撮影: 佐藤 実浩、2021年10月7日)
六十谷水管橋の崩落
(撮影: 岩川みちら、2022年6月24日)
明治用 水頭工の事業

UTokyo <http://hydro.iis.u-tokyo.ac.jp/31>

どうすれば“水みんフラ”が持続?

(冬 田んぼ、熊本県、2023年2月21日撮影)

(撮影: 道場 長野県天草村、2023年5月12日撮影)

UTokyo <http://hydro.iis.u-tokyo.ac.jp/32>

どうすれば“水みんフラ”が持続?

- ◆ “水みんフラ”への着実な投資
 - ※ 大規模集中型 + 小規模分散型
 - ※ 応分の負担、適切な料金への改定
- ◆ 人材育成、広域連携
- ◆ 雨水や再生水など水源の多様化
- ◆ グリーンインフラの活用
 - ※ 湿地の保全、農地の“水みんフラ”扱い
 - ※ 人工林の適切な間伐、地下水保全
- ◆ 流域治水+利水+環境+エネルギー

(冬 田んぼ、熊本県、2023年2月21日撮影)

UTokyo <http://hydro.iis.u-tokyo.ac.jp/33>

おわりに

- ◆ 雨は地上に棲む生きとし生け るものに恵みをもたらす。
- ◆ 雨はたくさん降ると、禍をなす。
- ◆ 雨を上手につかう「水みんフラ」の維持と管理が大事。
- ◆ 雨を測ってよく知ろう。
- ◆ 気候変動に伴い、豪雨が増加。
- ◆ 健全な水循環の維持または回復+気候変動対策+防災+…
- ◆ 水の恵みを最大限に生かし、水の災いを最小限に。
- ◆ 雨は誰のもの?

(冬 田んぼ、熊本県、2023年2月21日撮影)



パネルディスカッション

「雨水、文化、都市の未来を語る」

日本には、世界平均の2倍近くの雨が降ります。わたしたちは日々の生活の中で雨と親しみ、古くから雨にまつわる文化を育んできました。では、わたしたち一人ひとりが雨の恵みを楽しみ、災いと向き合っていくためにどのような知恵やくらし方が求められるのでしょうか。

セッションⅢの後半では、水ジャーナリストの橋本淳司氏をコーディネーターに、沖大幹氏に加えて、3人のパネリストを迎えてディスカッションを行います。水に関する教育、文化・アートと天気、自然と共に存する場づくり、技術と生活の橋渡しをする普及活動といった雨水を超えた様々な分野の視点から、地球規模の気候変動と日々の生活の中でのわたしたちそれぞれの行動をつなぎ、未来への展望を語り合います。

コーディネーター

橋本 淳司 水ジャーナリスト、アクアスフィア・水教育研究所



[プロフィール]

水ジャーナリストとして水問題やその解決方法をメディアで発信する。社会課題の解決に貢献した書き手として「Yahoo! ニュース個人オーサーアワード 2019」受賞。アクアスフィア・水教育研究所代表として、学校、自治体、企業などと連携し水に関するプロジェクトを実施。現在は武藏野大学工学部環境システム学科客員教授。水環境学を担当。

[ディスカッションに向けて]

小学校4年生の総合の時間に「雨水プロジェクト」を行いました。第1段階は雨水の価値に気づき、雨水を貯める装置をつくり楽しめます。学年全体で406Lの雨水を集めペットボトルロケット大会を行いました。第2段階は、貯めた雨水を活用し、誰かの役に立つこと。ビオトープや農園で雨水活用を行ったり、能登半島地震で断水が続くなか、雨水市民の会の金属製のレ



インキャッチを参考に、牛乳パックを材料にしたレインキャッチをつくる児童もいました。小学校4年生の総合の時間に「雨水プロジェクト」を行いました。第1段階は雨水の価値に気づき、雨水を貯める装置をつくり楽しめます。学年全体で406Lの雨水を集めペットボトルロケット大会を行いました。第2段階は、貯めた雨水を活用し、誰かの役に立つこと。ビオトープや農園で雨水活用を行ったり、能登半島地震で断水が続くなか、雨水市民の会の金属製のレインキャッチを参考に、牛乳パックを材料にしたレインキャッチをつくる児童もいました。



パネリスト

沖 大幹 水文学者、東京大学大学院工学系研究科 教授



[プロフィール]

東京大学工学部卒業、博士（工学）、気象予報士。2006年より東京大学教授。2016-21年には国際連合大学上級副学長、国際連合事務次長補を兼務。地球規模の水文学および世界の水資源の持続可能性を研究。2024年に水のノーベル賞とも言われる「ストックホルム水大賞（Stockholm Water Prize）」受賞。書籍に『水危機 ほんとうの話』（新潮選書）、『水の未来』（岩波新書）、『東大教授』（新潮新書）など。

※講演要旨は、P.29～33に掲載しています。

パネリスト

長谷部 愛 東京造形大学 非常勤講師



[プロフィール]

大学卒業後、各地のテレビ局・ラジオ局でキャスター、ディレクター業を経験。気象予報士資格取得後の2013年からはTBSラジオなどメディアを中心に気象情報を伝えている。2018年からは東京造形大学で、天気や気候変動でアートを解析する文化気候学の研究・講義を行う傍ら、執筆や講演なども行う。著書に『天気でよみとく名画 フェルメールのち浮世絵、ときどきマンガ』（中央公論新社）がある。

[ディスカッションに向けて]

気象予報士として働く中で、雨が気候変動について変化してきたことについて。また、美術大学で、天気とアートを研究する身として、雨水がアートなど文化の源であることをお話しできればと思っています。絵巻や浮世絵、絵画の中にある雨は、実に多様に表現されています。それは、日本が実際に様々な雨が降る世界的に珍しい場所にあることや、時に命を脅かすほどの大雨を様々に捉え、気持ちを乗せて豊かに表現するという雨と共に生きる知恵だと思います。そのような雨、雨水のもたらす恵みについてもお話しできたら嬉しいです。

パネリスト

石井 秀幸 株式会社スタジオテラ 代表取締役



[プロフィール]

1979年東京都生まれ

2005年ベルラーへ・インスティテュート（オランダ）卒業。久米設計、LPDを経て2013年株式会社スタジオテラ設立

【受賞歴】2021年東京都町田市薬師池公園ゲートハウス造園学会賞受賞
2023年さいき城山さくらホール大手前地区 土木学会デザイン賞 最優秀賞 その他 グッドデザイン賞等

【書籍】地域を変えるランドスケープ（単著）／KJ 2019年6月号スタジオテラ特集／
図解パブリックスペースのつくり方学芸出版社など

- RLA 登録ランドスケープアーキテクト／一級造園施工管理技士／自然再生士／雨水まちづくりサポート正会員
- 山梨県景観アドバイザー、山梨県武田の杜検討委員会
- 東京理科大学非常勤講師、金沢美術工芸大学非常勤講師

[ディスカッションに向けて]

水資源は、私たち人間にとって文化や生命の源であり、とても密接な関係をもっています。一方で、自然の摂理に反し、人間のみが豊かさを得ようとしている状況も見られます。

かけがえのない水資源を人間のみだけではなく、動植物を含めたすべての命を持つものがシェアしながら共存できる環境を生み出していきたいと考えています。

現在取り組んでいる雨水循環をさせたオフィスビル、動植物の命の個体数を増やすことを目指した集合住宅の取り組みをご覧頂きながら、みなさんと未来に向かって第一歩を踏み出す一日にしていきたいと思っています。

パネリスト

尾崎 昂嗣 合同会社アールアンドユー・レゾリューションズ 代表社員



[プロフィール]

東京都市大学 環境学部 客員研究員

土木系総合建設コンサルタント、樹脂製雨水貯留構造体メーカーを経て、2021年4月に会社設立。R & U = Rainwater and Us = 雨水と共に共生する社会の実現に向けて雨水浸透を主軸に活動。子どもたちに雨・水循環に関する事を伝え、一緒に考えることを大切にする傍ら、雨水ビルでの乾杯実現に向けて奔走。国内外で雨水との共生に向けて取り組んでいる。

[ディスカッションに向けて]

関東ロームの保水・透水特性に惹かれた私としては、日本の水循環の健全化のためには雨水浸透が不可欠であると感じています。他方、これまでの国内外における経験を通じて、雨水浸透だけでは解決できない課題があることも身に沁みて感じてきました。

パネルディスカッションでは、産・学・民、それぞれの立場で私が携わってきたこと、例えば東南アジアにおける浸水被害の軽減に向けた取組みや国内でのワークショップを通じた雨にわの実践、普及・啓発活動などを紹介したうえで、皆さんと一緒に私たちの未来について考えたいと思います。

エクスカーションコース紹介

雨水先進地「すみだ」を体感していただく3つのコースを設定しました。

A：たもんじ交流農園と多聞寺－都市の中の緑化と水循環を知り、活動の担い手と交流する－

B：両国ポンプ所と両国国技館周辺－大規模雨水利用の始まりと雨水排水の現場を訪ねる－

C：東京ソラマチ・スカイツリー－墨田区最大の雨水活用スポットを訪ね、環境配慮の取り組みを見学する－

A：たもんじ交流農園と多聞寺

－都市の中の緑化と水循環を知り、活動の担い手と交流する－

日 時／8月4日（日）13：55～16：20（予定）

定 員／20名 事前申込制（申込先着順） 参加費／無 料

集合時間・場所／13：55 墨田区役所1階正面玄関前（水神前あたりまでバス搬送）

※昼食は、集合時間まで各自ですませてください。

協 力：寺島・玉ノ井まちづくり協議会、橋本淳司【水ジャーナリスト】

■コース

水神前 → 隅田川神社（隅田川総鎮守）→ 木母寺（梅若の涙雨）

→ 梅若橋（御前菜畑・隅田川御殿等）→ 陸上競技場前交差点 → 多聞寺

・多聞寺 岸田住職のお話

・たもんじ交流農園でのアクティビティ（雨水のゆくえと地面の関係）

※終了後、現地解散

B：両国ポンプ所と両国国技館周辺

－大規模雨水利用の始まりと雨水排水の現場を訪ねる－

日 時／8月4日（日）12：45～16：15（予定）

定 員／20名 事前申込制（申込先着順） 参加費／無 料

集合時間・場所／12：45 墨田区役所1階正面玄関前（両国駅までバス搬送）

※昼食は、バスで両国駅移動後、周辺で各自すませてください。

協 力：東京都下水道局

■コース

○両国駅（バス移動後各自昼食、14時駅西口集合）

両国駅 → 両国国技館 → 両国ポンプ所 ほか

・両国国技館横：雨水活用解説

・両国ポンプ所：内部見学（約60分）

・隅田川沿い水門

・旧安田庭園：汐入の池

※終了後、現地解散

C：東京ソラマチ・スカイツリー

－墨田区最大の雨水活用スポットを訪ね、環境配慮の取り組みを見学する－

日 時／8月4日（日）13:40～16:00（予定）

定 員／20名 事前申込制（申込先着順） 参加費／無 料

集合時間・場所／13:40 都営浅草線「押上駅」改札出口前（現地まで各自で移動）

※昼食は、集合時間までに各自で用意してください。

協 力：東武タウンソラマチ株式会社

■コース

○都営浅草線「押上駅」改札出口前（墨田区役所から各自で移動、墨田区役所最寄駅「本所吾妻橋駅」より1駅）

押上駅 → ソラマチマチタウン

- ・地下1階雨水貯留槽の見学
- ・1階および4階（スカイアリーナ周辺）植栽の見学
- ・防潮板の見学
- ・地下2階中水機械室の見学
- ・時間に余裕があれば、隣接している受水槽の見学も可能です

1階に戻り解散

※終了後、現地解散

すみだ雨水まちあるき（セルフイベント）

向島・京島地域には、路地尊・天水尊・雨どいプランターなど、小さな雨水活用スポットがたくさんあります。

会場で無料配布されるマップとウェブサイトを見ながら、ぜひ巡ってみてください。

マップはこちらからもご覧いただけます。



<https://www.skywater.jp/sumida-sanpo>



☆お散歩は早朝がおすすめ！

雨水市民の会事務所で「朝の雨カフェ」営業も行います。

営業時間：8/4（日）8:00～9:00頃

場 所：墨田区向島 5-49-3

鳩の街通り商店街 寺島保育園向かい



雨水市民の会事務所



雨を活かして、未来へつなごう。

第14回 雨水ネットワーク全国大会2024

In
すみだ

支援団体廣告

◇各団体の広告をクリックするとホームページが表示できます。

0へ挑み、0から挑み、環境と感動を
未来へ建て続ける。

東急建設は、環境・社会課題の解決に向けて挑み続けます。

「建てる」を超えて、未来を生みだす。

 東急建設



「大切な水資源」井水、雨水、池の水をリサイクル
TOP純水ミストシャワーPRO

移動型

猛暑をひんやり クールダウン!!

ミスト発生装置 RO純水装置 ポータブル電源

バラソルミスト

タンク

原水は
水道水
雨水・池の水
など

純水で
安心
安全

MIST
TOP純水ミスト
シャワーPRO
活用イメージ動画

お問い合わせ
0570-024132

製造・発売元
株式会社トップウォーターシステムズ
Top Water SYSTEMS

〒143-0015 東京都大田区大森西 5-27-15



Denka
デンカアステック株式会社
トイレ洗浄用雨水タンク
ピュアエデン



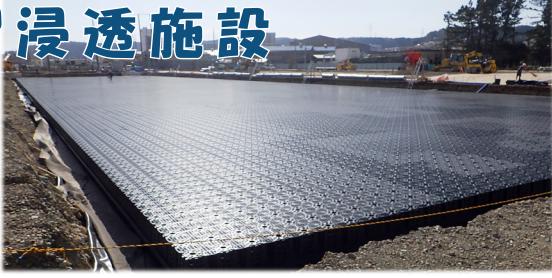
PURE EDEN

**プラスチック製雨水貯留浸透施設
ニューブラくん**

ニュートレンチくん

 株式会社

◆お問い合わせ
東京都千代田区外神田5-2-3 TEL : 03-3832-1617
ホームページ : <https://www.titibu.co.jp>



雨水は地球全部水循環

 公益社団法人 **雨水貯留浸透技術協会**
ARSIT Association for Rainwater Storage and Infiltration Technology
〒102-0083 東京都千代田区麹町3-7-1 半蔵門村山ビル1F <https://www.arsit.or.jp>



河川防災監視の決定版! CTi 株式会社 建設技術研究所

 IoT 監視観測パッケージ

河川状況・道路冠水の監視に必要な観測機器をワンセットで



自治体防災担当者の方へ

健全で持続可能な水循環の創造を目指して

 Resolutions

健全な水循環系の構築に向けた調査、研究、計画、設計および普及啓発、教育研修・人材育成に取り組んでいます。


Photo: 笹川みちる

合同会社
アールアンドユー・レゾリューションズ (東京都立川市) // ozaki.t@randu-r.com

雨水の新しい活用方法

ミストでもシャワーでもない 雨滴の再現

オリジナル散水システム 試験／涼感／演出／防じん／灌水 他

レインカーテン®

TEL: 048-291-1001 MAIL: salesgr@technocore.jp

専用ノズル

雨粒づくり自由自在

株式会社 テクノコア
T ECHNO CORE Co.,Ltd

▼当社HP 



雨水利用、飲み水をつくる

雨水浄化システム『レインバスター』
1時間に 780ℓ を殺菌ろ過処理

雨水を生活用水に
更にろ過して飲料水に
鉱石から抽出したミネラル殺菌凝集剤と複数のフィルターでろ過して雨水をきれいな水に！

～雨水利用事例～

福岡県中間市
学校法人

東京都葛飾区
個人宅

株式会社スリーエス
東京都中央区八丁堀 3-11-12 大基ビル 1F
TEL : 03-5540-4855 <https://arukas-rb.jp/>

人と自然との調和 ~雨水を活かす知恵と技術

株式会社トーテツ TOTETSU MFG.CO.,LTD ☎: 03-3493-5911 ✉: tokyo@totetu.com

MCC
三井共同建設コンサルタント
MITSUI CONSULTANTS CO., LTD.

三井共同建設コンサルタント
<https://www.mccnet.co.jp/>

次の「解」へ。

創立60周年を迎えた八千代エンジニアリング
2024年1月29日に61周年を迎えましたが、
私たちは、次の未来に向けた挑戦をすでに始めています
挑戦こそが、次の未来の「解」となるはずですから

YACHIYO
Engineering

株式会社一二三工業所

給排水衛生・空調設備工事



ろ過精度
0.5 μm

●繰り返し使用できます

濁った水をすぐに透明でクリーンな水へ

**高精度浄水器
QF0.5**

生活 用水

水中に沈めるだけでサイフォンの原理で
簡単にろ過できるフィルターです

非常時の生活用水を雨水などをろかして
大量に供給できます

製造・総販売元 赤沢産業株式会社
〒533-0031 大阪市東淀川区西淡路 1-1-32 新大阪アーバビル 3階
TEL (06) 6990-1250 E-mail : az-kk@muc.biglobe.ne.jp

雨水



機能及び特徴

- 内蔵バッテリーでの停電時制御機能
- バルブ異常検知機能
- 異常時の再駆動機能標準装備
- カスタム対応可能

の利用・貯留にお役立ち!!

KKK 兼工業株式会社

兼工業 の 雨水制御盤 & 雨水遮断弁 & ボールタップ



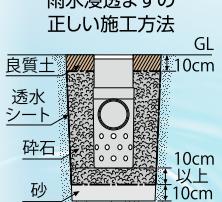
お問い合わせはこちら⇒URL <https://www.kanevalve.co.jp>

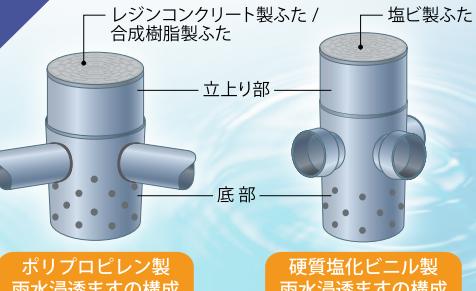
プラスチック製 雨水浸透ます

特長

- 1 軽量、コンパクトなプラスチック製の
ますで施工コストを削減
- 2 現場スペースに応じた
数多くのサイズをご用意
- 3 万が一、宅地内では普通乗用車程度
までの荷重が加わっても安全です
(蓋は普通乗用車対応のものをご使用下さい)
- 4 製品内面は滑らか!
メンテナンスが容易に行えます

雨水浸透ますの
正しい施工方法





レジンコンクリート製ふた / 合成樹脂製ふた
立上り部
底部
塩ビ製ふた

ポリプロピレン製
雨水浸透ますの構成

硬質塩化ビニル製
雨水浸透ますの構成

塩化ビニル管・継手協会 〒107-0051 東京都港区元赤坂 1-5-26 東部ビル TEL.03-3470-2251 FAX.03-3470-4407 URL <https://www.pfpa.gr.jp>



防災対応型雨水タンク
RainHarvest

**GOOD DESIGN
AWARD 受賞**

私の選んだ一品 受賞
2019年度グッドデザイン賞
審査委員セレクション

TOKILABO





大銛産業株式会社 土木部

(大阪) 大阪市中央区今橋二丁目1番10号 (ダ化ビル) 6F
TEL (06) 6220-1135 FAX (06) 6220-1105

(東京) 東京都中央区日本橋小舟町 11-7 (ダ化ビル) 6F
TEL (03) 5652-7870 FAX (03) 5652-7871

第14回 雨水ネットワーク全国大会 2024 in すみだ

企画・運営

雨水ネットワーク全国大会 in すみだ実行委員会

実行委員長 山本 耕平 特定非営利活動法人雨水市民の会 理事長

副実行委員長 山村 寛 中央大学 理工学部 人間総合理工学科 教授

〃 霜田 亮祐 千葉大学 園芸学部 大学院園芸学研究院 准教授

事務局長 笹川 みちる 特定非営利活動法人雨水市民の会 理事

会計 尾崎 昂嗣 合同会社アールアンドユー・レゾリューションズ 代表社員

〃 平田 京子 雨水ネットワーク 事務局 公益社団法人雨水貯留浸透技術協会

監事 小川 剛 特定非営利活動法人寺島・玉ノ井まちづくり協議会 副理事長 事務局

委員 高橋 朝子 特定非営利活動法人雨水市民の会 事務局長

〃 松本 正毅 特定非営利活動法人雨水市民の会 副理事長

〃 佐原 滋元 特定非営利活動法人雨水市民の会 副理事長

〃 伊藤 林 特定非営利活動法人雨水市民の会 理事

〃 高原 純子 特定非営利活動法人雨水市民の会 理事

〃 柴 早苗 特定非営利活動法人雨水市民の会 理事

〃 牛久 光次 特定非営利活動法人寺島・玉ノ井まちづくり協議会 理事長

〃 舞谷 文香

〃 屋井 裕幸 雨水ネットワーク 代表 公益社団法人雨水貯留浸透技術協会 常務理事

〃 大西 和也 雨水ネットワーク事務局 公益社団法人雨水貯留浸透技術協会

墨田区

大会会長 山本 亨 墨田区長

大会事務局担当 菜原 航 墨田区資源環境部 環境政策課 課長

〃 荒井 拓郎 墨田区資源環境部 環境政策課 環境政策担当 主査

〃 仲戸川 亜弓 墨田区資源環境部 環境政策課 環境政策担当 主事

2024年8月3日発行

発 行／雨水ネットワーク全国大会 in すみだ実行委員会

〒131-0033 東京都墨田区向島5-49-3

特定非営利活動法人雨水市民の会内

E-Mail : taikai@rain-net.jp

Rainwater Network JAPAN

主 催

雨水ネットワーク全国大会 in すみだ実行委員会 墨田区

後 援

国土交通省 環境省

雨水楽舎 雨水市民の会 雨水ネットワーク東北 雨水まちづくりサポート あめゆきCafe
一寺言問を防災のまちにする会 関西雨水市民の会 京島地区まちづくり協議会 全国水環境交流会
寺島・玉ノ井まちづくり協議会 日本建築学会あまみずのこれからを考える小委員会
みずとみどり研究会

協 賛

株式会社日本水処理技研 東急建設株式会社 株式会社トップウォーターシステムズ
デンカアステック株式会社 秩父ケミカル株式会社 公益社団法人雨水貯留浸透技術協会
株式会社建設技術研究所 合同会社アールアンドユー・レゾリューションズ 株式会社テクノコア
株式会社スリーエス 内山硝子株式会社 テラル株式会社 株式会社トーテツ
サンエービルドシステム株式会社 三井共同建設コンサルタント株式会社 御谷湯
八千代エンジニヤリング株式会社 有限会社風大地プロダクト 株式会社牛久工務店
東京都公衆浴場業生活衛生組合墨田浴場支部

(順不同・敬称略)

協 力

株式会社アクアサポートーズ 芝浦工業大学 JT「Rethink PROJECT」 墨田区観光協会
すみだ新製品開発プロジェクト すみだ北斎美術館 多聞寺 千葉大学 中央大学 東京都下水道局
東京都都市整備局 東武タウンソラマチ株式会社 千輪 東京都市大学環境学部環境地理学研究室
エバタ株式会社

(順不同・敬称略)